

社会福祉法人 南あわじ市社会福祉協議会

# 令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)



「みんなで考え みんなでつくる 笑顔のまち  
～つなぐ つながる つなぎあう～」

# 活動目標①「自分たちが暮らす地域のことを知ろう」

## <活動の目的・ねらい>

地域での助け合い、見守りをすすめる上で、人・場所・活動など、まずは自分たちの住んでいる地域のことを知ることが大切です。地域の人や活動に興味を持ち、知ることができるきっかけづくりをすすめます。

【年4回発行の広報わかば】

## ●今ある活動を広く伝えよう 【共同募金配分金・会費】

### ■広報わかばの発行

発行回数	4 回
発行部数	59,200 部

※新聞折込による。沼島地区は、出張所を通じて配布。



### ■ボランティアセンターだより・生活支援コーディネーターだよりの発行

発行回数	12 回（毎月）
発行部数	7,800 部

地域福祉活動や社協の活動、ボランティアに関する情報を発信しました。毎月発行のボランティアセンターだより・生活支援コーディネーターだよりは、公共施設や関係機関、金融窓口、コンビニに設置いただくなど、活動を広く伝えていきます。

### ■Facebook、Instagramの更新

更新、アップロード回数	81 回
-------------	------

## ●地域の歴史や活動に興味を持とう

- 市民交流センターとのネットワークづくり
- 地域づくり協議会への参画
- 地域単位での会議等への参画



【緑地域】

内容	回数
・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問…	24 回
・民協の会議や活動に参加…	12 回
・自治会の会議や活動に参加…	5 回
・老人会等の活動や会議に参加…	1 回
・地域づくり協議会などの会議に参加…	7 回
	49回
<p>令和6年度は、ふれあいいきいきサロンが3か所増え、集いの場が少しずつ広がっています。解散が相次いでいた単位老人クラブの状況を調査したところ、グラウンドゴルフや公民館活動へ参加している実態がありました。「高齢者に限らず、子どもたちも気軽に楽しく参加できる場があったらいいな」との声もあるため、今後は地域づくり協議会と連携し、ユニバーサルスポーツなど誰もが気軽に参加できる場づくりをすすめていきます。</p>	

【西沢地域】

内容	回数
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問… 84 回</li> <li>・民協の会議や活動に参加…………… 9 回</li> <li>・自治会の会議や活動に参加…………… 3 回</li> <li>・老人会等の会議や活動に参加…………… 2 回</li> <li>・地域づくり協議会などの会議に参加…………… 3 回</li> </ul> <p>毎月、第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問し、情報共有に努めました。引き続き、地域の情報収集に努めるとともに、各種団体との情報共有をすすめます。また、地域づくり協議会等へ参画ができていない状況が続いているため、地域住民との関わりを増やし、地域の現状把握に努めます。また、つながりワーカー養成講座等の開催を通して、地域での見守りについて話し合いをすすめます。</p>	101回

【三原地域】

内容	回数
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問… 120 回</li> <li>・民協の会議や活動に参加…………… 11 回</li> <li>・自治会の会議や活動に参加…………… 10 回</li> <li>・老人会等の会議や活動に参加…………… 2 回</li> <li>・地域づくり協議会などの会議に参加…………… 13 回</li> </ul> <p>毎月、第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問し、情報共有に努めました。 榎列倭文地区・八木地区・市地区の地域づくり協議会に委員として参画し、地域の現状を把握・共有しています。また各地区の敬老会や公民館まつりに積極的に出向き、地域住民との顔の見える関係づくりをすすめています。</p>	156回

【南淡地域】

内容	回数
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問… 72 回</li> <li>・民協の会議や活動に参加…………… 16 回</li> <li>・自治会の会議や活動に参加…………… 10 回</li> <li>・老人会等の会議や活動に参加…………… 1 回</li> <li>・地域づくり協議会などの会議に参加…………… 14 回</li> </ul>	
<p>賀集お元気くらぶ実行委員会、阿万地区単独防災訓練への参加など、地域づくり協議会の福祉に関わる部会や活動への参加が増えました。移住者、若者が主体的に活躍する地域へのヒアリングをすすめたところ、吹上町自治会やコミュニティスペースエモラボなど阿万地区の取り組みを紹介していただき、なんたん支部運営委員会にて視察研修を実施しました。</p> <p>また、「フレイル予防に地域ぐるみで取り組みたい」と灘市民交流センターから相談があり、『まちの保健室』を調整したところ、他の地域からも協力してほしいとの声がありました。令和7年度はお寄せいただいた相談をもとに地域づくり協議会と連携して活動を展開していきます。</p>	113回

●井戸端会議のしやすい環境をつくろう 【善意銀行】



■地域福祉事業助成金の活用と財源の確保

善意銀行については、地域福祉財源として、より一層の有効活用や寄附者の思いを地域に還元できるしくみづくりのために、善意銀行運営要綱と設置規程を設けました。身近な地域で寄附が循環していることを知っていただくことで、財源の確保にもつなげていきます。



## 活動目標②「お互いを知り、認め合えるきっかけづくりをすすめよう」

### <活動の目的・ねらい>

自分たちの地域に暮らす人のことを知り、自分の思いや考えを伝えるなど、地域を「我が事」として考えていくことが大切です。学校だけでなく、地域や企業でも積極的に福祉学習を取り入れ、お互いを知り、認め合えるきっかけづくりをすすめます。

## ●地域で研修会・学習会をすすめよう 【共同募金配分金・会費】



### 【みどり】

1月18日（土）に「ぼうさいカフェin緑」を実施し、「南あわじ市における大規模災害対策について」南あわじ市危機管理課より報告いただき、グループワークでは、大規模災害時での被害想定や備蓄や避難ルートなどについて話し合いました。参加者からは「防災について学ぶ機会は必要だが、身近な防災については自治会など身近な地域で話し合いたい」との声があり、今後は小地域で防災をテーマに話し合う場づくりをすすめていきたいと考えています。

10月20日（日）には、「楽しみながら福祉を考える」をテーマに、「みどりふれあい福祉のつどい」を開催しました。昨年度に引き続き、『赤い羽根ハロウィン』を実施し、共同募金のPRを積極的に行いました。舞台コーナーでは、手話サークル三原による手話歌を披露していただき、参加者と一緒に楽しく手話を学びました。

### ■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R6.5.16	第1回 ・年間計画について 9月に「ぼうさいカフェin緑」の実施 10月に「みどりふれあい福祉のつどい」の実施	14名
R6.6.27	第2回 ・「ぼうさいカフェin緑」について テーマ「大規模災害対策について」 ・「みどりふれあい福祉のつどい」について 10月20日（日）に社会福祉協議会前にて開催 第1回実行委員会を8/19（月）に開催	13名
R6.7.25	第3回 ・「ぼうさいカフェin緑」について 発表：南あわじ市における大規模災害対策について （南あわじ市危機管理課）	17名
R6.8.19	第4回 ・「ぼうさいカフェin緑」について タイムスケジュール、当日の役割等について確認 ・募金協力員会について 10/10（木）に開催	11名
R6.12.26	第5回 ・「ぼうさいカフェin緑」について 順延日程、参加者への周知などについて協議	11名
R7.3.27	第6回 ・令和6年度の活動の振り返りについて ・情報共有・地域の課題について	9名

■みどり支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R6.10.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募金協力員の選任について</li> <li>・令和5年度事業報告、令和6年度事業計画について</li> <li>・募金活動の推進について</li> <li>・班編成ならびに事業所訪問について</li> </ul>	26名

■みどりふれあい福祉のつどい実行委員会

月日	内 容	出席者数
R6.8.19	第1回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の設置について</li> <li>・役員の選任について</li> <li>・実施計画（案）、予算（案）について</li> </ul>	17名
R6.9.12	第2回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施計画について</li> <li>・タイムスケジュール、役割分担について</li> <li>・周知・広報について</li> </ul>	18名
R6.10.10	第3回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムスケジュール・当日の役割分担について</li> <li>・雨天時の対応について</li> </ul>	19名
R6.11.28	第4回 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計監査報告</li> <li>・みどりふれあい福祉のつどい振り返りについて</li> </ul>	13名



みどりふれあい福祉のつどい



せいだんふれあい交流のつどい

## 【せいだん】

2カ月に1回、支部運営委員会を開催しました。具体的な活動については支部運営委員会内で協議をすすめ、「せいだんふれあい交流のつどい」「役員研修」を実施しました。「せいだんふれあい交流のつどい」では、スタッフを含め500名を超える方にご参加いただき、大盛況のうちに終わることができました。また、視察研修では淡路市社協を訪問し、先進地域から学びを得るとともに、過疎地域での地域福祉活動について学びを深める機会となりました。

### ■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R6.5.23	第1回 ・社会福祉協議会の活動について ・今年度の活動計画について ・地域の情報共有	18名
R6.7.25	第2回 ・「せいだんふれあい交流のつどい」について ・地域の情報共有	11名
R6.9.19	第3回 ・「せいだんふれあい交流のつどい」について ・今年の大口訪問募金事業所について ・地域の情報共有	11名
R6.11.14	第4回 ・「せいだんふれあい交流のつどい」について ・視察研修について ・地域の情報共有	13名
R7.1.19	第5回 ・「せいだんふれあい交流のつどい」の振り返り ・役員研修について ・地域の情報共有	10名
R7.3.27	第6回 ・役員研修会の振り返り ・令和6年度の活動の振り返り ・地域の情報共有	12名

### ■せいだん支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R6.9.30	・令和5年度事業報告および実績報告 ・令和6年度事業計画 ・令和6年度大口募金の法人等依頼事項について	書面決議 にて実施

■せいだんふれあい交流のつどい実行委員会

月日	内 容	出席者数
R6.11.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>• せいだんふれあい交流のつどい実行委員会について</li> <li>• 収支予算（案）について</li> <li>• 当日の役割分担について</li> </ul>	13名

■せいだん支部視察研修

月日	内 容	出席者数
R5.3.10	視察先 ①さぬきうどん「幸来」（就労継続B型） ②地域支えあいセンター ほくだん ③地域生活多機能拠点 いづかしの杜（就労継続B型）	8名

【みはら】

2カ月に1回、支部運営委員会を開催しました。令和6年度は、主に「地域福祉フォーラム」と「みはら支部募金協力委員会」について協議をすすめました。

また、「地域福祉フォーラム（みはら福祉の集い）」と題し、西淡志知地区で活動されているボランティアグループ「ほほえみ」様にご登壇いただき、子ども食堂の取り組みについて発表いただきました。参加された方からは「地域食堂に取り組んでみたい。何から始めたらよいか」などの声があり、地域活動へつながるきっかけになりました。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R6.7.22	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 南あわじ市社会福祉協議会について</li> <li>• みはら支部運営委員会について</li> <li>• 令和5年度事業報告、令和6年度事業計画について</li> <li>• 地域福祉フォーラムについて</li> </ul>	11名
R6.9.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域福祉フォーラムについて</li> <li>• 地域の情報共有</li> </ul>	11名
R7.1.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域福祉フォーラムについて</li> </ul>	11名
R7.3.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域福祉フォーラム実施報告</li> <li>• 令和6年度の活動の振り返り</li> <li>• 令和7年度の活動について</li> </ul>	10名

■みはら支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R6.9.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 令和5年度事業報告および実績報告</li> <li>• 令和6年度事業計画</li> <li>• 街頭募金活動について</li> </ul>	11名

## 【なんだん】

11月9日（土）に「なんだん福祉まつり」を実施し、多くの方に参加していただきました。  
 また、「少子高齢化より人口減少が顕著となる地域を支える次世代のリーダー発掘、育成」をテーマに、沼島地区の現地踏査、阿万地区の取り組みを視察しました。阿万地区吹上町自治会では、自治会が移住者、若者の思いを後押しし、公会堂のネット環境整備、ホームページの立ち上げ、移住体験施設の整備など、未来を見据えた居場所づくりについて学び、コミュニティスペースエモラボでは、卓球バレーなどユニバーサルスポーツを軸とした、誰もが参加でき福祉の理解を進める居場所について学びました。

### ■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R6.5.21	第1回 ・年間計画について 11月に「なんだん福祉まつり」を実施 1月～3月に視察研修を実施 各地区の情報交換、年間行事など	17名
R6.7.23	第2回 ・なんだん福祉まつりについて 11/9（土）賀集地区公民館にて開催 各地区の情報交換、民生委員活動、地域福祉活動について	15名
R6.12.10	第3回 ・視察研修について 視察の目的の共有、視察先の選定について	13名
R7.1.12	第4回 ・視察研修について 当日の参加案内、タイムスケジュールについて	16名
R7.3.25	第5回 ・令和6年度の活動の振り返り	13名

### ■なんだん支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R6.10.29	・令和5年度事業報告および実績報告 ・令和6年度事業計画 ・募金活動の推進について	17名

### ■なんだん支部視察研修

月日	内 容	出席者数
R7.3.12	視察先 ①沼島の歴史を学ぶ現地踏査 ②阿万地区吹上町自治会 ③NPO法人 コミュニティスペース エモラボ ④ただっきゃ2	12名

■なんたん福祉まつり実行委員会

月日	内 容	出席者数
R6.9.6	第1回 ・実行委員会の設置について ・役員を選任について ・実施計画（案）、予算（案）について	10名
R6.9.17	第2回 ・実施計画の確認 ・周知および広報について ・役割分担について	16名
R6.10.29	第3回 ・当日のタイムスケジュール、役割分担について ・前日準備、雨天時の対応について	17名
R6.12.10	第4回 ・会計監査報告 ・なんたん福祉まつりの振り返り	13名

■各支部まつり 

月日	まつり名	内 容	会場
R6.10.20	みどりふれあい 福祉のつどい 2024	野外ステージ、お楽しみコーナー、赤い羽根ハロウィンなど	南あわじ市 社会福祉協議会
R6.11.9	令和6年度 なんたん福祉まつり	舞台発表、お買い物マルシェ、体験ワークショップ、卓球バレー体験会など	賀集地区公民館
R6.11.30	せいだんふれあい 交流のつどい	舞台発表、バザー、ワークショップ、餅つき、物品の販売	湊地区公民館

■地域福祉フォーラム

地域共生社会の実現に向け、さまざまな異なる立場や所属の地域の方との連携・協働による取組みが身近な地域に広がることを目指し、地域福祉フォーラムを開催しています。

令和6年度は、「『子ども食堂』広げよう、支援の輪！」と題し、子ども食堂の活動に焦点を当て実施しました。

月日	内 容	出席者数
R7.2.23	地域福祉フォーラム ～『子ども食堂』広げよう、支援の輪～ ボランティアグループ「ほほえみ」からの実践報告、 ファシリテーターmottoひょうご 事務局長 栗木 剛氏	80名

## ■福祉の出前講座

各地区で展開しているサロンや集いに講座を手法とし、職員が参加しました。地域の情報を把握し、地区カルテに記入していくことができました。

講座メニュー	具体的な内容	回数
レクリエーション	各地区で開催されているふれあい・いきいきサロンにて、工作や体操等の指導	80回
防災（支え合い）マップづくり	マップ作りなどを通して地域の防災意識の向上を目的に実施	0回
講習その他	サロンで人権ビデオ等を活用し、人権意識や健康意識の向上を目的に実施	8回

## ●地域で福祉学習をすすめよう

### ■学校での福祉学習

月 日	内 容	学校・事業所名
R6.6.17	車いす体験	南淡中学校
R6.6.17	認知症サポーター養成講座	南淡中学校
R6.7.10	手話体験	倭文小学校
R6.7.13	車いす体験	辰美小学校
R6.9.19	手話体験学習	松帆小学校
R6.9.25	高齢者疑似体験	榎列小学校
R6.9.26	アイマスク・白杖体験	松帆小学校
R6.10.1	点字体験	榎列小学校
R6.10.3	車いすユーザー当事者による講話	辰美小学校
R6.10.3	車いす体験	榎列小学校
R6.10.4	アイマスク・白杖体験	志知小学校
R6.10.9	ユニバーサルスポーツ体験（車いすバスケット）	辰美小学校
R6.10.16	車いす体験	倭文小学校
R6.10.17	アイマスク・白杖体験	榎列小学校
R6.10.30	ユニバーサルスポーツ体験（車いすバスケット）	倭文小学校
R6.10.31	高齢者疑似体験	倭文小学校
R6.11.6	アイマスク・白杖体験	倭文小学校
R6.11.7	車いす体験	松帆小学校
R6.11.14	高齢者疑似体験	松帆小学校
R6.11.19	アイマスク・白杖体験	広田中学校
R6.11.27	車いす体験	神代小学校
R6.11.28	車いす体験	市小学校
R6.12.2	知的障がい疑似体験	北阿万小学校
R6.12.12	手話体験	西淡中学校
R6.12.13	アイマスク・白杖体験	辰美小学校
R6.12.20	アイマスク・白杖体験	沼島中学校
R7.1.21	アイマスク・白杖体験	市小学校

R7.1.27	手話体験	榎列小学校
R7.1.30	知的障がい疑似体験	湊小学校
R7.2.6	車いす体験	湊小学校
R7.2.18	視覚障がい当事者による講話	広田小学校
R7.2.19	ユニバーサルスポーツ体験（車いすバスケット）	八木小学校
R7.2.19	手話体験学習	福良小学校
R7.2.20	アイマスク・車いす体験	広田小学校
R7.2.25	アイマスク・白杖体験	八木小学校
R7.2.28	アイマスク・白杖体験	福良小学校
R7.3.6	高齢者疑似体験	福良小学校
R7.3.7	車いす体験	福良小学校
R7.3.11	高齢者疑似体験	北阿万小学校

#### 【福祉学習講師派遣活用状況】

対象	件数	助成額
小学校	16 件	160,000 円
中学校	3 件	30,000 円
高等学校	0 件	0 円
専門学校	0 件	0 円
大学	0 件	0 円

#### ■企業・事業所での福祉学習

沼島中学校で実施した視覚障がい者の理解をすすめる福祉学習に、地元の木村屋旅館の従業員の方も一緒に参加し、声掛けや手引きなどの支援方法について学びました。企業や事業所が、業種や施設に応じた福祉体験を行うことで、安心して利用できるお店、施設が増え、誰もが暮らしやすいまちへとつながっていきます。今後も企業、事業所とつながりあい、当事者の理解をすすめるための福祉学習の啓発を行っていきます。

#### ■当事者理解を深める学習

赤い羽根共同募金配分金を講師派遣費用として活用することで、地域・学校での福祉学習の拡充に努めました。令和6年度は、市内小中学校17校で延べ39回の講師派遣や物品の貸出を実施しました。

年々福祉学習プログラムを導入していただく機会は増加しており、令和6年度は福祉学習プログラムの見直しや、学校だけでなく地域の現況に応じたプログラムの開発を目的として、当事者や学校関係者とのワークショップを実施しました。

#### ■福祉学習デザインワークショップ

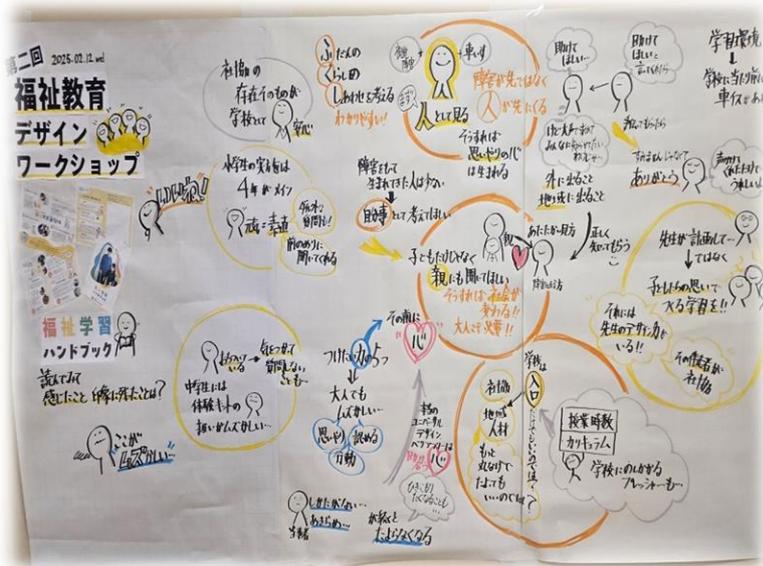
月 日	内 容	参加者
R6.8.23	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校での福祉学習プログラムについて現状と課題</li> <li>これからの福祉学習について意見交換</li> </ul>	各学校 福祉学習担当教諭 障がいのある当事者 計13名
R7.2.12	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの福祉学習について</li> <li>改訂版ハンドブックについての意見交換</li> </ul>	各学校 福祉学習担当教諭 障がいのある当事者 計9名

## ■サマーチャレンジボランティア

高校生、専門学校生、大学生、移住者など、延べ20名が地域のイベントや福祉施設などで活動しました。期間中に、感染症の影響もあり、活動日数が減少しましたが、参加者からは、「子どもたちと触れ合え、楽しく活動できた。これからの生活や学業に活かしていきたい」などの感想をいただきました。

受入施設からは、「ボランティアが来てくれることで利用者の表情が明るくなり、私たちも一緒に楽しめた。これからも積極的に受け入れたい」などの声をいただきました。

今後も一人でも多くの方がボランティア活動に興味をもってもらえるように、朗読や傾聴などのテーマごとの講座や、ボランティアセンターだよりなどを通じて活動紹介や啓発活動を行っていきます。



福祉学習デザインワークショップ



サマーチャレンジボランティアの様子

## 活動目標③「地域で活躍できる人を増やそう」

### <活動の目的・ねらい>

高齢化や人口減少から、地域の担い手不足が大きな課題となっています。住民による地域づくり活動を広げていくためにも、これまでの活動者への支援に加え、新しい層への働きかけや幅広い世代が活動に関われるきっかけづくりをすすめていきます。

## ●新しい人材を見つけるきっかけづくりをすすめよう

### ■ボランティア災害共済加入の手続き

ボランティア活動中の事故に備え、安心して活動が行えるよう「ボランティア・市民活動災害共済」などの加入促進を図りました。

種 別	人(件)数	掛金
兵庫県ボランティア・市民活動災害共済	779 人	389,800 円
兵庫県ボランティア活動等行事用保険	13 件	29,200 円
兵庫県移送サービス交通傷害保険	24 名	10,720 円

### ■県民ボランティア活動助成等の広報と活用

広報わかば、ボランティアセンターだよりを通じて助成金情報を周知し、49グループからのエントリー申請を受理しました。ボランティア活動が円滑に行えるように支援していきます。

### ■朗読ボランティア初級講習会

視覚障がい者や視力の低下した高齢者などを対象に、音声での情報提供を行うボランティアを育成することを目的に、講習会を実施しました。令和6年度は、朗読ボランティア未経験者もしくは3か月未満の方を対象に実施し、11名の参加がありました。受講者は、修了後に市内のボランティアグループへ加入し、積極的に活動されています。

期間	講師	参加者数	場所
R7.1.16~3.21	デイジー淡路 瀧川 さよ子氏	11名	広田地区公民館

### ■トライやる・ウィークの受け入れ

期間	学校名	人数	活動内容
R6.5.21~5.23	三原中学校	7 名	各事業所体験、サロン訪問、共同募金資材作成など

## ●活動者の交流の輪を広げよう 【共同募金配分金】

### ■学生ボランティア交流会

「学生同士が顔を合わせ話す機会がない」との声から、市内在住または在学している高校生、大学生、専門学校生を対象に、次世代の担い手育成を目的とした学生ボランティアのつどいを実施しました。学生たちが交流したことで、「学校同士でコラボして活動してみたい」「今後のボランティア活動の参考になった」「すごく楽しかったので、また集まりたい」との声がありました。

月日	内容	参加者数	場所
R7.1.31	グループトークと英字新聞エコバッグづくり	10名	市地区公民館

## ■リーダー交流会

講師を迎え、認知症予防のための脳トレと体幹を鍛える体操を体験後、グループごとに意見交換をしました。ふれあい・いきいきサロンでの活動や悩みなどを共有し、今後のサロン活動に活かせる内容となりました。

月日	内容	参加者数	場所
R6.6.28	認知症予防のための脳トレに関心のある方が多いため、「デイサービスセンター元気の家」の村本氏に講師を依頼し、楽しみながら自然に脳への刺激を与えるプログラム（らくしゅう式 脳機能訓練）の講話とコアチューニング体操を行いました。サロンの活動プログラムとして活用いただける内容となりました。	35名	榎列・倭文市民交流センター

## ●生活を支える担い手を増やそう

### ■新しい事業への取り組み

内 容
引きこもりや障がいのある方を支援している「ソーシャルデザインセンター淡路」が推進している『英字新聞エコバッグ作成活動』に協働で取り組みました。施設、病院、学生ボランティア、サロン、企業などに幅広く働きかけ、多くの場所でエコバッグ作りを展開しました。作る楽しさとともに社会参加できる喜びを知ってもらい、新たなつながりが生まれました。

### ■おもいやりポイント制度

シニア世代の多種多様な活躍の場の創出を目的に、南あわじ市生涯活躍推進室が「高齢者等元気活躍推進事業」を推進しています。活動者の安全と安心を守るため、社協では、ボランティア保険の加入申し込み手続きという形で協力しています。

◇おもいやりポイント制度登録説明会等開催支援業務への協力

月日	場所	登録状況	
		内容	登録者数
R6.4.23	南あわじ市役所	個別	1名
R6.4.26	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	
R6.5.22	南あわじ市役所	制度の説明会・相談会	
R6.5.24	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	
R6.6.14	南あわじ市役所	制度の説明会・相談会	
R6.6.24	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	
R6.7.5	南あわじ市役所	制度の説明会・相談会	
R6.7.29	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	
R6.8.9	南あわじ市役所	制度の説明会・相談会	
R6.8.26	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	1名
R6.9.30	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	
R6.10.11	沼島公民館	制度の説明会・相談会	2名
R6.10.25	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	

R6.11.13	八木公民館	制度の説明会・相談会	
R6.11.25	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	
R6.12.11	三原志知公民館	制度の説明会・相談会	1名
R6.12.23	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	
R7.1.15	働く婦人の家	制度の説明会・相談会	
R7.1.31	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	
R7.2.21	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	
R7.3.14	福良公民館	制度の説明会・相談会	
R7.3.21	さくら苑	個別	1名
R7.3.28	南あわじ市役所	制度の説明会・相談会	

■表彰

受賞者・団体	表彰名・大会等	表彰の内容
淡路島・慶野松原根上がり隊	令和6年度 ひょうご県民ボランティア活動賞	長年にわたり、慶野松原の清掃活動や、小学生を対象とした環境体験学習などに積極的に取り組む団体



リーダー交流会



英字新聞エコバッグ作り

## 活動目標④「誰でも参加できる居場所を増やそう」

### <活動の目的・ねらい>

地域の中で孤立する人をなくすためにも、誰かとつながることができるきっかけづくりや、参加できる居場所が必要です。さまざまな形で参加できる居場所、助け合い活動を広げる居場所を、地域の中に増やしていきましょう。

### ●その人に合わせた「働く場」を増やそう

#### ■はたらく場の創出

高齢者や障がい者、生活困窮者など属性にとらわれることなく、身近な地域に自己実現できる場があること、誰もに自分に応じた活躍の場があること、地域の中での役割があること、そんな南あわじ市にできるように関係機関との協議を重ねています。

令和6年度は、南あわじ市障害福祉計画を基に、「なりたい自分になれる」まちを目指すことをテーマに、「はたらきたい」気持ちを応援できるしくみを検討しました。超短時間雇用創出プログラムにかかる座談会などにも参加し、意見交換を行いました。

### ●同じ思いの人がつながりあえる居場所を増やそう 【共同募金配分金・補助金、受託金】

#### ■ふれあい・いきいきサロン

誰もが地域で元気に暮らせるように、身近な地域で集える場づくりを推進しています。コロナ禍で集まることに制限がかかった時期を乗り越え、人と人とがつながり合うことを大切に各地域でさまざまなサロンが活動しています。継続した活動が行えるように支援していきます。

【緑エリア】 15カ所

【西淡エリア】 29カ所

【三原エリア】 12カ所

【南淡エリア】 27カ所



## ■つながりサロン

当事者が交流できる場として、定期的を開催していく大切さを実感しています。また内容については参加者から意見を聞き、取り入れています。2ヵ月に1回程度、開催しています。

月日	内容	参加者数	場所
R6.6.29	第1回つながりサロン「寄せ植え体験」 ・季節の花々の寄せ植えを楽しむ ・お弁当を食べながら日々の暮らしについて意見交換会	17名	市地区公民館
R6.10.6	第2回つながりサロン「みんなでおしゃべり会」 ・お弁当を食べながら日々の暮らしについて意見交換	5名	市地区公民館
R6.12.21	第3回つながりサロン「クリスマス会」 ・プレゼント交換やビンゴゲーム等 ・お弁当やクリスマスケーキを食べながら意見交換	13名	市地区公民館
R7.3.8	第4回つながりサロン「みんなでおしゃべり会」 ・お弁当を食べながら日々の暮らしについて意見交換 ・令和7年度活動計画について意見交換	10名	市地区公民館

## ■スポーツ交流教室

障がいのある当事者の方からも「またみんなでスポーツをしたい」との声があり、令和6年度も卓球バレー大会やフットサル交流大会へ参加しました。

月日	内容	参加者数	場所
R7.2.16	つながりフットサル交流大会	11名	定住交流促進センター 鮎愛館
R7.3.2	南あわじ市卓球バレー交流大会	8名	南あわじ市文化体育館



つながりフットサル交流大会



南あわじ市卓球バレー交流大会

## ■音声パソコン教室

視覚障がい者がパソコン操作やインターネットなどを学ぶことで、情報を自ら得て新たな友達とつながることや、当事者が地域で自分らしく暮らすことができるようになることを目指して実施しています。

パソコンの操作・設定方法だけではなく、タブレットや視覚補助器具などの使用方法なども学び、参加者間での情報共有を行いました。参加者の持つニーズの変化に対応しつつ、令和6年度も継続して実施することができました。

月日	内容	参加者数	場所
R6.4.13	データの検索方法について	6名	市地区公民館
R6.5.11	タイピングについて 視覚補助器具・イベントの情報共有	8名	市地区公民館
R6.6.8	蔵書検索の方法、ネット通販の利用方法について	8名	市地区公民館
R6.7.13	SNSのアカウント登録について	8名	市地区公民館
R6.8.17	音声データの保存方法について 質疑応答	4名	市地区公民館
R6.9.14	音声データの移動方法について 参加者間での情報共有	9名	市地区公民館
R6.10.19	参加者のしたい内容について	8名	市地区公民館
R6.11.16	イベント等の情報共有	8名	市地区公民館
R6.12.14	参加者間での情報共有	9名	市地区公民館
R7.1.11	インターネットの利用について	8名	市地区公民館
R7.2.8	X(旧: Twitter)の利用方法について	6名	市地区公民館
R7.3.15	パソコン本体の設定方法について	8名	市地区公民館

## ■よかサークル「あつまらんか！」

保護者や兄弟姉妹同士の余暇支援やつながりづくりに焦点を当て毎年実施しています。この企画には地域のボランティアにもご協力をいただいております。障がいのある子どもたちと地域のボランティアが交流する機会にもなっています。そして交流を通して相手の立場になって考えたり、他人を思いやる優しさを育む場にもなっています。また、事業の中で保護者は子どもたちの様子を見ながら、保護者同士で日頃の生活や進路などについて語り合う情報交換の場にもなっています。

月日	内容	参加者数	場所
R6.8.8	海のレクリエーション(マリンスポーツ) ・Wカヌーやバナナボート、メガSUPなどの体験や交流	42名	南淡B&G 海洋センター

## ■くらす連絡会

障がいの有無や種別にとらわれず、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、話し合いの場や活動の場づくりを当事者の方々とともにすすめました。話し合いの場で出た意見は、行政や淡路障害者自立支援協議会などの関係機関へつなげ、当事者の声を反映できる地域づくりに取り組みました。今後も自らの思いや意見を発信できる場、関係機関との連携・共有の役割を果たせるよう事業をすすめていきます。

月日	内容	参加者数	場所
R6.11.17	南あわじ市総合防災訓練に参加 ・会場見学 ・災害、防災について意見交換	17名	倭文小学校 倭文地区公民館

## ■家族会（知的・精神・身体・認知症等）

障がい者の相談支援の現場から、親なき後の子どもの生活を心配する保護者の声が出てきたことを受けて、「みんなでしゃべろう会」を2カ月に1回実施しました。生活の中での不安や、何気ない会話ができる場として開催していましたが、お子さんの年代別に課題が異なるため、開催方法を見直すことになりました。定期開催を希望する声もあるため、参加者の意見を聞きながら今後のあり方を検討していきます。

月日	内容	参加者数	場所
R6.5.17	おしゃべり、参加者同士の交流	3名	南あわじ市社協 202会議室
R6.7.19	親なき後を考える勉強会 行政書士 船瀬剛史氏による講話	5名	南あわじ市社協 202会議室
R6.9.20	しゃべろう会のあり方について、意向確認	1名	南あわじ市社協 202会議室
R7.1.17	しゃべろう会のあり方について、意向確認	1名	南あわじ市社協 202会議室

※11月と3月は参加者がいませんでした。



よかサークル

## 活動目標⑤「あなたもわたしも自分らしく暮らせるしくみをつくろう」

### <活動の目的・ねらい>

暮らしや考え方の多様化に伴い、生活課題も複雑化、多様化しています。地域の中で孤立する人がないように相談支援のネットワーク強化だけでなく、支援が必要であるにも関わらず届いていない人に対して、働きかけができるしくみをつくっていく必要があります。

## ●みんなの権利が守られる共生のまちづくりをすすめよう 【補助金、受託金】

### ■日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方が、地域において自立した生活を送れるよう支援を行っています。生活困窮者自立支援事業で受けた相談の中には、金銭管理に不安を感じている方もおり、本事業の利用も検討するなど、相談も視野に入れながら一体的な対応ができるよう支援しています。

#### 《相談件数》

初回相談	3 (10) 件	新規契約者数	3 (10) 人
相談回数	386 (423) 件	利用実人数	27 (27) 人

( ) 中数字は前年度実績

初回相談および契約者の内訳は知的障がい者1件、精神障がい2件です。3件とも金銭管理の支援が無いグループホームの入所者で、かつ家族による支援が困難が理由でした。

これとは別に3件の問い合わせがあり、いずれも家族の変化（死別、親亡き後を想定）が理由でした。

相談回数の減少は、継続利用者への支援定着および新規契約数の減少と分析しており、令和7年度は事業に関する周知の点も意識して取り組みます。

#### 《対象者別契約者数》 ※令和7年3月末現在

契約者	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
件数	3件	13件	11件	0件	27件

#### 《契約者に対する訪問回数》

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延支援回数
R6年度	74	79	70	78	83	72	74	67	70	63	71	68	869 回

### ■生活福祉資金貸付制度・法外小口資金貸付事業

生活福祉資金貸付制度は低所得世帯をはじめ、障がいのある方や介護が必要な高齢者等のいる世帯に対して、資金の貸付と民生委員・児童委員が必要な支援を行うことにより、経済的自立と生活意欲を高めると同時に在宅福祉及び社会参加を促し、世帯が安定した生活を営むことができることを目的として貸付をしています。

初回貸付相談は21件、下半期は進学先決定に伴い教育相談の割合が多く、6件中3件の貸付申請を行いました。他は生活費の不足、エアコン購入、車検費用、家の修繕費用、療養費が挙げられています。生活費の不足の原因は、家族との関係性の悪化や家計管理の課題が主な理由になっています。

気になった点では、連帯借受人設定が必須になる65歳以上からの相談は6件、内2件は車検費用の相談であったことです。物価高騰の中、年金生活では車検費用の捻出が厳しく、家族や親族にも相談できないとの訴えでした。車必須の当市において、また、単身世帯の増加傾向にある社会状況から、今後もさらに条件を満たすことができない相談の増加が懸念されます。

資金種類		R6年度	R5年度	貸付（償還）中の件数
教育支援資金		3	1	78
福祉 資金	生業を営むために必要な資金	0	0	
	技能を習得するために必要な資金	0	0	
	住宅の増改築や改修のために必要な資金	0	0	
	福祉用具を購入するために必要な資金	0	0	
	中国残留邦人の年金追納に必要な資金	0	0	
	療養のために必要な資金	0	0	
	介護・障害福祉サービスに必要な資金	0	0	
	冠婚葬祭に必要な資金	0	0	
	住居の移転等に必要な資金	0	0	
	その他日常生活上一時的に必要な資金	0	0	
	緊急小口資金	0	0	
	総合支援資金		0	1
不動産担保型生活資金		0	0	0
要保護世帯向け不動産担保型生活資金		0	0	0
新型コロナ 特例貸付	緊急小口資金※			71
	総合支援資金 生活支援費※			136

法外小口資金	13(11)	17(14)	
--------	--------	--------	--

※（ ）中の数字は、年度内に償還が完了したもの

#### ■新型コロナウイルス特例貸付

新型コロナウイルス感染症に伴う支援制度として始まった特例貸付は令和4年9月30日をもって受付が終了となりましたが、以降も借受人の生活や償還、手続き等の支援を継続して行っています。

令和6年度は、特例貸付の利用者のうち、償還を猶予または免除されている114名の方に聞き取り調査を行いました。内、回答が得られたのは内76名で、67%の回答率でした。

内訳は、高齢者世帯17名、障がい者（本人）2名、母子・父子世帯10名、生活困窮者自立支援事業で継続10名、社協で継続10名、生活保護世帯（借入後）7名になります。

現在の相談先は「家族・親戚」、「友人・知人」が多く、次いで「社協」、「市役所」となっています。特例貸付をきっかけに、社協が相談先であるとの認識につながったのではと考えます。

現在の困りごとは多い順に、「収入・生活費のこと」、「病気や健康、障がいのこと」、「債務」となりました。

今後あってほしい・利用したい制度は、「病気や健康、障がいの事で利用できる制度」、「食料支援」、「気軽に相談できる場所」と並びますが、1つ1つは少ないですが、「その他」の意見が割合として多く、今後はそれらにも着目して分析し、今後の資源開発に活用していきます。

また、今回は詳しい収入までは聞き取っていませんが、76名中、28名は収入の減少や不安定な状況であるとの回答であったため、状況把握は今後も必要と考えています。



■障害者虐待防止センター（南あわじ市障害者権利擁護センター）

障がいのある方の権利を守るため、虐待通報などへの対応を行いました。権利侵害されていることに気づいていない方や、言葉で表現することが難しい方など、判断に迷うケースが増えています。正しい対応ができるように、研修会に参加するなどしてスキルアップに努めています。当事者の権利を守る機能を発揮できるように、市の担当者とも検討を重ねていきます。

《相談・通報者》						《内容》					
本人	家族	事業所	警察	医療機関	その他	身体的	放棄放任	心理的	性的	経済的	その他
0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0

●お互いの存在を知り、出会う機会を大切にしよう 【共同募金配分金】

■人権学習

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	南あわじ市社会教育課と連携し、ふれあい・いきいきサロンでのビデオ学習の支援、じんけんサマーフェスティバルでは、おひさま隊のみなさんと知的・発達障害の疑似体験を行いました。福祉まつりでは啓発活動を行い、人権についてより身近なところで学ぶ機会を設けました。
---------------------------	--

■当事者活動の支援

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	手をつなぐ育成会、身体障害者福祉協会、中途失聴難聴者の会、あわじユニバーサルスポーツの会等から、社会福祉事業助成金配分金事業の申請を受付けています。各団体が抱えている課題などの解決方法を探りながら、活動を続けていくために必要な支援を検討していきます。
---------------------------	---

●助けたり・助けられたりできる関係を大切にしよう 【共同募金配分金】

■まちな電気屋ネットワーク事業

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	生活困窮者や火災などにより、住宅や家財等を失くした方に、電化製品などを提供することで、自立した生活の再建に向けた支援を行っています。市内12店舗の電気屋が登録しており、使わなくなった電化製品の寄附と年1回の点検を行っています。 社協が、このネットワークのコーディネートを担っており、冷蔵庫、洗濯機、エアコン、テレビ、炊飯器、ポット、電子レンジ、ホットプレート、トースター等の11品目を保管しています。 火災被害世帯1件に2品目を一時的に提供し、生活保護および生活困窮者へは3件に2品目3点を提供しました。  【登録電気店】 (有)浜野電機、庄司電気商会、喜田電気商会、松下電器、辻西電化センター、豊原電気商会、マスマトでんき、電気の店くらだ、サカベ電器、双葉電化、矢野ミシン電器商会
---------------------------	--

■架け橋パントリープロジェクト【市民プロジェクト】

フードバンク淡路島、消費者協会、コープこうべ、あわじ島農業協同組合、市担当課等との連携により「食でつなぐ！南あわじの輪！架け橋パントリープロジェクト」をすすめています。市内ではフード・ドライブの取り組みが浸透し、安定的に食材が集まっています。

コロナ5類移行後においても、不安定な経済情勢における物価高やいわゆる令和の米騒動などの影響により、市内での食材に対するニーズは依然として高くなっています。

食材の配布で一時的な支援を行い、相談窓口を開設し、希望者には生活面の相談に応じています。必要な方に情報が届くよう特例資金利用世帯やひとり親世帯への郵送での案内を継続しています。また住民のニーズを把握するアンケート調査を毎回実施しています。第11回開催時のアンケート結果からは、物価の上昇やそれに伴う子どもの食費・学費に対する不安が多く聞かれました。そのほか「本プロジェクトをきっかけに身近な相談窓口である社会福祉協議会を知った」、「食材のほか、日用品の配布もあって助かっている」などの声をいただいています。

今後も住民のニーズを丁寧に聞き取りながら事業をすすめていきます。

月日	内容・利用者数	場所
R6.4.20	第1回ミニ食材無料配布会を開催 ※ひとり親世帯25世帯へ配布	南あわじ市社協
R6.8.19	食材の詰込み作業・精米（南あわじ市消費者協会・ボランティア他）	
R6.8.21	第10回架け橋パントリープロジェクト食材無料配布会を開催 ※93世帯の方へ配布 地域の方々に寄附いただいた日用品もお持ち帰り頂きました	
R6.12.23	食材の詰込み作業・精米（南あわじ市消費者協会・ボランティア他）	
R6.12.24	第11回架け橋パントリープロジェクト食材無料配布会を開催 ※102世帯の方へ配布 地域の方々に寄附いただいた日用品もお持ち帰り頂きました	

■生活困窮者等への食材支援

生活再建のきっかけづくりを目的に生活困窮世帯や生活保護世帯へ必要に応じ、各種団体のフードドライブからの提供や善意銀行へ預託された食材を活用し、12世帯へ合計19回の食材支援を行いました。主な要因は家族関係の悪化、生活保護開始までのつなぎ、家計管理に課題が挙げられます。

※架け橋パントリープロジェクトの食材無料配布とは別の取り組みです。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
提供回数	1	2	3	6	1	1	1	1	1	0	0	0	17 (42)

( ) 中数字は前年度のもの



ミニパントリーの様子

## 活動目標⑥「困りごとを受け止めてつないでいけるしくみをつくろう」

### <活動の目的・ねらい>

個々の生活課題や、各種団体の課題などを話し合える場が少なく、それぞれで課題を抱え込んでしまっている現状があります。地域で起こっていることに目を向け、課題を整理して解決に向けた取り組みができるように、住民相互の話し合いの機会を増やしていきます。

### ■庁内ネットワーク会議

取り組みの内容 (成果・課題・今後の方向性等)	物価高騰による生活への影響が長期化する中で、各関係機関が実施している制度や支援施策について情報を共有しました。お互いにどこにつなげばいいのかわを確認し、誰も取り残すことがないように支援体制を整えています。声なき声を拾い上げる取り組みをどのように広げていくか、また相談者に寄り添い続けることができるしくみも検討しています。 【実施回数：1回】
----------------------------	---

## ●包括的な相談支援ができる体制を考えていこう 【補助金・受託金】

### ■生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業：市へ職員1名を出向

相談傾向として、「家計管理の課題」、「就職活動困難」、「病気」、「DV・虐待」についての相談が多く寄せられました。特に「就職活動困難」による相談内容が多く、高齢や体調不良により就労の継続や再就職することが難しくなったこと、家族の入院・入所や治療費が世帯の家計を圧迫し、見直しをする余裕のないままさらに困窮状態に陥っているケースもありました。また、ここ数年「メンタルヘルスへの課題」「コミュニケーションが苦手」「本人の能力の課題」により、困っていてもどこから手を付けていいかわからないまま困窮状態に陥り、どうにも出来なくなり家族や支援者を通じて相談に至るケースも増加しています。相談者の中には「税金などをきちんと納めていないから相談に乗ってもらえない」と思い、諸手続きを諦めていた方もいました。

自立相談支援機関への相談経路の大半が、関係者や関係機関からの紹介を通じてであり、相談者の置かれている状況からいち早く脱却するためには、早期につながるしくみや相談窓口の周知が必要です。今後も相談者の声なき声を拾い上げ、各課や関係機関と連携し、相談者に寄り添いながら必要な情報を届け続けるとともに、必要な支援につなげていく取組みを行います。また、相談者の抱える課題が多岐にわたるため、関係機関でチームを組み、相談者への伴走的な支援が出来る体制が必要です。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談者数	4	4	6	4	2	4	3	4	5	4	8	6	54 (41)

( ) 中数字は前年度のもの



《相談者が抱えている問題》※一つのケースで複数の問題を抱えています

1	病気	22
2	障害（手帳有）	9
3	障害（手帳未取得）	7
4	メンタルヘルスの課題	18
5	住まい・ホームレス	13
6	経済的困窮	53
7	（多重・過重）債務	18
8	家計管理の課題	32
9	就職活動・定着困難	43
10	生活習慣の乱れ	7
11	社会的孤立	4
12	家族関係・家族の問題	23
13	介護	8
14	中卒・高校中退	0
15	ひとり親	9
16	DV・虐待	5
17	刑余者	1
18	コミュニケーションが苦手	6
19	本人の能力の課題その他	42
合 計		320

《支援内容》

情報提供・相談のみ	42	
他制度・機関につなぐ	10	
同意に向けて取り組む	1	
プラン策定 ※前年度受付分及び再プランを含む	3	
スクリーニング前	0	
合 計		56

《地域別相談》

緑	2
西淡	11
三原	17
南淡	23
島外	1

■基幹相談支援センター【市委託事業】

相談支援専門員の後方支援として関わるケースも多く、一緒に訪問や会議に参加するなど、本人中心支援を実践できるようにサポートしています。支援困難ケースとして、長期間社会とのつながりが途切れてしまっているケース、治療にはつながっているも福祉につながれなかったケースなどに対応しました。また、家族支援として、関係機関からつながってくる相談も増えていきます。

基幹相談支援センターとして求められる役割が増える中、継続して関わり続けることができるよう、相談支援体制を整備していくことが必要です。

《相談対応件数》

対象	実人員		身体障害		重症 心身障害		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳 機能障害		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
相談件数	51	15	6	0	0	0	7	9	23	0	2	3	1	0	12	3

《会議への参画》

会議の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路障害者自立支援協議会</li> <li>・相談支援事業所部会</li> <li>・三市基幹相談支援センター連絡会</li> <li>・県基幹相談支援センター連絡会議</li> <li>・ひきこもり・不登校のための連携会議</li> <li>・ひきこもり等地域連携ネットワーク会議</li> <li>・医療的ケア児等の生活支援検討会</li> <li>・医療的ケア児等の生活支援検討会事務局会議</li> <li>・医ケア児コアケース会議</li> <li>・医療的ケア児等関係者会議</li> <li>・市町医療的ケア児等コーディネーター連絡会</li> <li>・南あわじ市医療的ケア児支援検討会</li> <li>・南あわじ市障害福祉計画等策定委員会</li> <li>・南あわじ市教育と福祉連携会議</li> <li>・特別支援コーディネーターネットワーク会議</li> <li>・重層的支援会議</li> <li>・アルコール連絡会</li> <li>・短期入所事業所相談会</li> <li>・支援会議</li> <li>・対象児小学校入学準備に向けての支援会議</li> <li>・園生活に伴うケース会議</li> </ul>
-------	---

《勉強会・研修会の実施と参加》

内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域での現任者フォローアップ研修</li> <li>・圏域での初任者研修受講者へのフォローアップ研修</li> <li>・事例検討会</li> <li>・南あわじ市相談支援事業所連絡会 （個別避難計画について、第4次南あわじ市障害者計画等について、「不登校・ひきこもり」を考える研修会、情報交換会）</li> <li>・兵庫県相談支援従事者初任者研修（打合せ、演習講師）</li> <li>・医療的ケア児等コーディネーター養成研修（打合せ、演習講師）</li> <li>・南あわじ市医療的ケア児支援研修</li> <li>・医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修</li> <li>・超短時間雇用創出プログラムにかかる座談会</li> <li>・アルコール研修会</li> <li>・市町職員・障害者虐待防止センター職員向け研修</li> </ul>
----	--

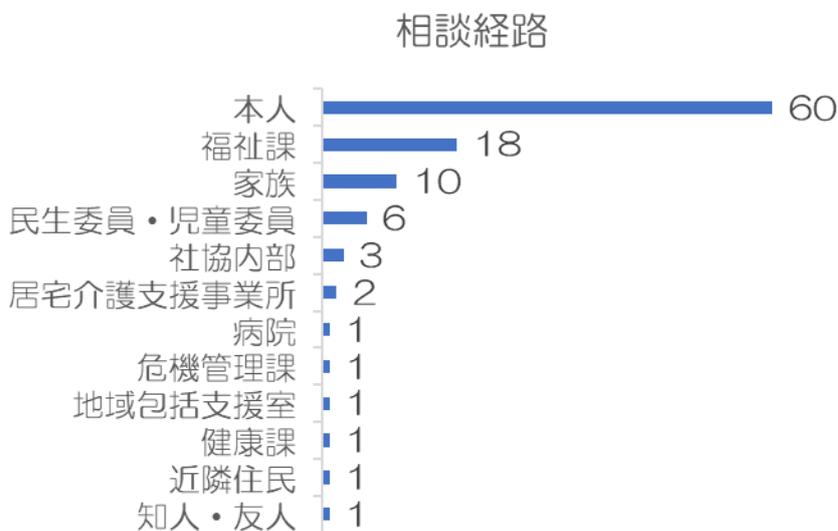
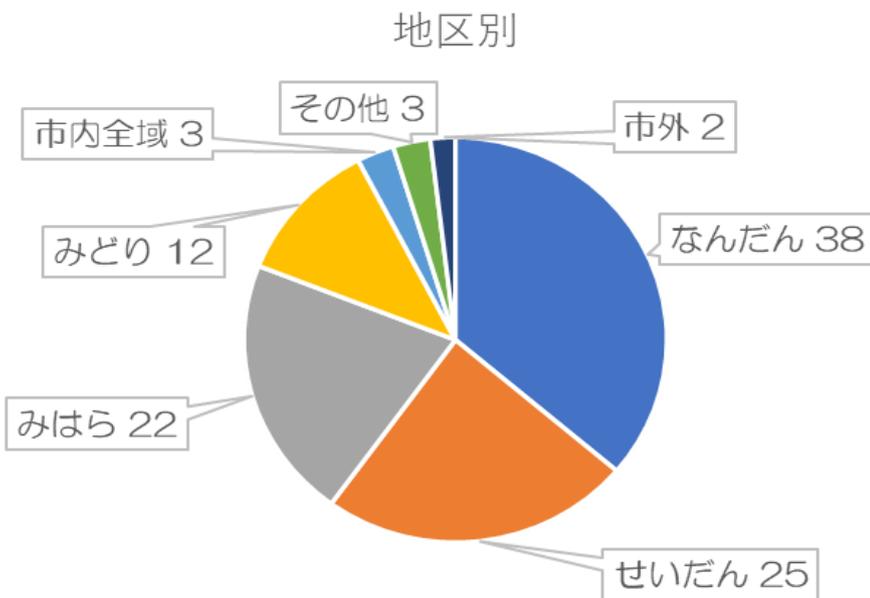
■ 総合相談

令和6年度は、住民の課題に焦点をあてることを目的に、総合相談のみ集計し、全体の傾向を比較しやすいよう、項目についても生活困窮者自立支援事業に合わせています。

相談延べ件数105件の内、その他以外では「収入・生活費」、「食べ物が無い」、「病気や障害」の順に多く、項目はそれぞれ別にしてはいますが、実情は「家計管理に課題」、「家族関係」といった要因が収入・生活費の悪化を招き、食料が確保できなくなったという傾向が年間を通して見えました。単純に収入が回復すれば解決するものではなく、複合的課題を抱えている現状が改めて顕著となりました。

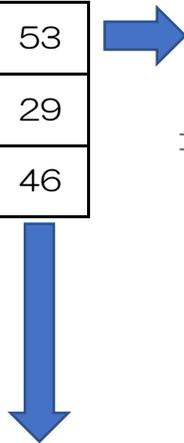
《相談経路》

相談者	本人	家族	知人・友人 近隣	民生委員 児童委員	社協	市役所	他機関	合計
件数	60	10	2	6	3	21	3	105

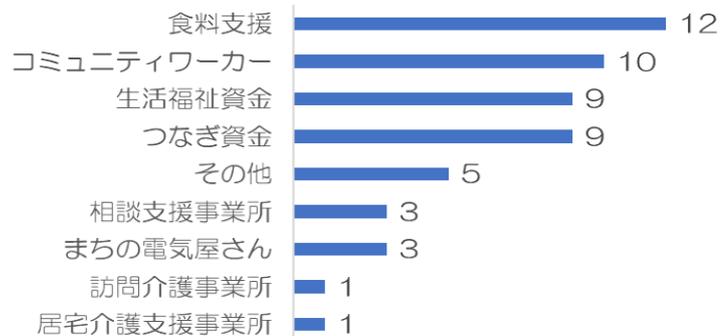


社協による相談の継続・支援	53
他機関等の紹介、引き継ぎ	29
相談のみ	46

※1件につき重複支援あり



### 社協による相談支援



### 他機関等への照会・引継ぎ



※効果的に分析を行うため、「コロナ特例貸付」や「日常生活自立支援事業」の利用者からの相談は含めていません。

## ●困りごとを共有して支え合いを考える場をつくろう

### ■住民と協議できる地域ケア会議

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	旧町単位ごとに毎月1回地域ケア会議に参加し、その地域で抱える高齢者等のケースについて検討しています。支援困難事例などを共有して、関係者のネットワークづくり、個別ケースを通じての地域の課題の把握を行っています。
---------------------------	--

## ●困っている人を見つけたらほっとかない 【会費】

### ■自治会との協働

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	賀集地区高萩自治会で、兵庫県が実施している「持続可能な多自然地域づくりプロジェクト事業」を活用した「集落カルテ」の作成に参加しました。市民協働課からの働きかけを受けて作成作業に関わり、自治会のみなさんと10年後の自治会の将来像を共有する機会となりました。
---------------------------	---

### ■民生委員・児童委員協議会との協働

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	毎月、定期的開催される旧町単位ごとの民生委員・児童委員協議会役員会に出席し、顔の見える関係性をつくるとともに、地域の課題や個別の困難事例などを共有・検討しています。つながることで民生委員から相談が多く寄せられ、緊急対応や福祉サービスへのつなぎなど連携がスムーズ行われるようになりました。今後は全地域で同じような参画ができるよう調整していきます。
---------------------------	--

## ■社会福祉法人連絡協議会：ほっとかへんネット

「誰もほっとかへん」孤立する人がないまちづくりを進めるため、市内11の社会福祉法人が地域課題の解決に向けた検討を行っています。社会福祉法人の強みを生かした支援体制を構築できるように活動を続けています。

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	<ul style="list-style-type: none"><li>・実務担当者会の開催</li><li>・推進会議の開催</li><li>・研修会の実施</li><li>・岡山県社協での実践報告</li><li>・兵庫DWAT研修会への参加と派遣調整訓練への参加</li><li>・社会福祉士現場実習の受け入れ（武庫川女子大学より12名）</li><li>・課題対応型プロジェクトへの取り組み</li></ul> <p>地域課題に向き合いながら、新たな活動を生みだしていけるように地域貢献のあり方を協議しています。令和6年度からの2カ年事業として、県社協が実施している課題対応型プロジェクトを申請し、実動に向けた検討を行っています。市内で課題になっている移手段について話し合いをすすめており、先進地への視察研修を実施するなど、具体的な取り組みに向けて活動しています。</p>
---------------------------	--



つながり座談会



ほっとねっと勉強会

## 活動目標⑦「生活を支えるサービスを充実させよう」

### <活動の目的・ねらい>

8050問題やひきこもり、生活困窮などこれまで以上にさまざまな生きづらさを抱えた人や福祉課題を抱える家庭が増えています。介護や支援が必要な人に必要なサービスが届くよう、また、制度だけでなくニーズに応じた生活支援サービスの開発に取り組みます。

### ●介護や支援が必要な人に必要なサービスが提供できる体制づくりをしよう【自主財源・受託金】

#### ■居宅介護支援事業所

令和6年度の報酬改定により報酬がプラス改定となったほか、新規契約数の増加と中重度の利用者数の増加により、収入が8.6%増となりました。

現在算定している「特定事業所加算」では、ヤングケアラー、障がい者、生活困窮、難病患者などの他制度に対する研修への参加要件が追加され、令和6年度はヤングケアラー、障がい者に関する外部研修を受講しました。実情、担当する利用者、ヤングケアラーや障がいのある方、障害福祉サービスから介護保険へ移行する方、難病を患っている方などがいます。今後も、事業所内での研修や外部研修への参加を行い、より広い視野で専門性の高い支援を行えるよう努めていきます。

#### 《ケアプラン作成件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比	
利用者数	147	148	146	157	150	150	155	150	152	147	148	151	1,801 (1,699)	106%	
要介護 度別 利用者 内訳	支援1	29	28	27	28	28	27	26	27	28	27	28	29	332 (313)	106%
	支援2	39	39	42	42	39	40	41	40	41	37	35	35	470 (443)	106%
	1	31	31	30	33	32	34	33	29	30	30	33	36	382 (371)	102.9%
	2	26	25	22	26	26	24	27	26	27	28	28	25	310 (319)	97.1%
	3	11	12	12	14	13	13	16	15	14	13	13	15	161 (133)	125%
	4	10	11	12	13	11	11	11	11	11	10	9	8	128 (107)	119.6%
5	1	2	1	1	1	1	1	2	1	2	2	3	18 (13)	138.4%	

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

#### 《新規契約件数》

(主な内訳) 電話：11件、地域包括：7件、病院：6件、施設：3件、利用者家族：5件、以前の利用者：4件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
総合事業	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (2)
介護予防	4	1	2	1	1	0	1	2	0	0	0	0	12 (9)
介護	5	4	3	6	3	2	0	1	2	1	0	0	27 (13)
計	9	5	5	8	4	2	1	3	2	1	0	0	40 (24)

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

《解約件数》

(主な内訳) 死亡：11件、長期入院：8件、転居：4件、その他：2件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
総合事業	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	4 (2)
介護予防	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3 (4)
介護	1	2	2	3	0	2	1	1	6	2	4	1	25 (24)
計	2	2	3	5	0	2	1	1	6	4	4	2	30 (30)

※合計欄下段( )中の数字は、前年度のもの

《介護支援専門員1名あたり取扱い件数》

{要介護利用者数+(介護予防利用者数×1/3)}÷職員数(常勤換算)

※総合事業のみ利用の利用者は含めない

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
件数	31.80	31.67	32.35	34.61	33.22	32.90	33.96	33.00	32.70	32.03	32.70	33.64	32.88 件
職員数 (常勤換算)	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.10 名

※介護報酬改定により、介護支援専門員1人当たりの取り扱い件数の上限が、「40件未満」から「45件未満」に変更。

介護予防支援の取り扱い件数は、利用者数に「3分の1」を乗じた件数が介護1件と算定する計算式に変更。(改定前は2分の1)

《認定調査受託件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
調査数	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2 (11)

※合計欄下段( )中の数字は、前年度のもの

■訪問介護事業所

介護保険の介護報酬による収入は18.6%減、障害福祉サービスの介護報酬による収入は12.6%減でした。

介護保険では、令和6年度の報酬改定により、基本単価が2.4%減となったほか、訪問回数が多い方や身体介護で支援している利用者の入院・利用終了、転居や他サービスへの移行による利用終了が多かった反面、新規利用者数が伸びなかったことが要因です。

障害福祉サービスでは、報酬はプラス改定でしたが、職員の退職等による訪問調整が難しくなり、4名の利用者を他事業所の利用へ移行した他、計10名が利用終了になったことが要因です。

職員体制において、常勤職員3名の退職がありましたが、10月に登録ヘルパー1名を常勤ヘルパーへ登用、3月に常勤ヘルパー1名が入職し、常勤ヘルパー4名、登録ヘルパー14名の体制で運営しています。平均年齢が63.6歳で先の課題はありますが、利用者数・訪問回数の増加、収入の増加を図るため、ケアマネジャーや相談支援専門員へ積極的に働きかけていきます。

また、職員体制の状況から、外部研修の受講機会を十分に確保できなかったため、令和7年度は外部研修の受講機会を確保し、職員・事業所の更なる質の向上を図っていきます。

◎定例会内で実施した研修

月	内容	月	内容
4月	自立支援について	10月	記録について
6月	障がいのある方の意思決定支援について	12月	事故発生時の対応について
	食中毒予防について	1月	認知症ケア
8月	災害時の対応について	2月	緊急時の対応について

◎外部研修

職種	内容	月
管理者	今後の訪問介護事業所経営のあり方について	6
管理者・サービス提供責任者	サービス提供責任者の基本的な業務について	11
管理者	チームで支える意思決定支援	11
管理者	誰ひとり取り残さない地域づくりを目指して ～重層的支援体制整備事業について知ろう!～	12
管理者	相談支援を“つなぐ”研修	2
管理者	ペップトークが生み出すモチベーションアップ	3

○介護保険サービス

《要支援・要介護度別利用状況》前年度比92.5%

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	9	9	9	9	9	9	8	8	8	6	8	8	100 (163)
要支援2	23	23	22	22	19	17	18	18	20	19	19	19	239 (191)
要介護1	12	13	10	10	9	9	12	13	11	11	13	13	136 (221)
要介護2	6	5	4	7	7	6	4	4	5	6	8	5	67 (110)
要介護3	9	10	10	8	8	8	8	7	7	6	5	4	90 (61)
要介護4	8	8	8	8	8	8	9	8	8	6	3	3	85 (45)
要介護5	2	2	2	1	1	1	1	1	1	0	0	2	14 (15)
計	69	70	65	65	61	58	60	59	60	54	56	54	731
令和5年度	68	67	67	69	65	64	65	63	65	64	66	67	790

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

《訪問回数》前年度比85.3%

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度	671	708	598	639	638	604	574	565	573	504	457	479	7,010
令和5年度	687	699	710	702	698	682	722	669	687	645	660	657	8,218

《新規利用状況》

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1 (2)
要支援2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3 (2)
要介護1	1	1	0	2	0	0	3	2	0	0	2	1	12 (3)
要介護2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2 (2)
要介護3	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4 (1)
要介護4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (1)
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2 (0)
計	5	3	0	2	0	1	3	3	0	0	4	3	24
令和5年度	3	2	3	2	0	1	1	1	2	3	5	2	25

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

《利用終了状況》

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	1	1	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0	7
要介護	0	2	5	2	1	0	1	2	2	6	3	0	24
計	1	3	5	3	3	1	1	2	2	6	4	0	31
令和5年度	1	5	0	0	3	3	3	1	1	2	2	2	23

《解約理由》

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死亡	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	2	0	6
特養入所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
老健入所	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	4
入院	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	5
ロングショート利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
その他	1	2	3	2	2	0	0	0	0	2	1	0	13

《入院状況》

入院実人数25名、うち骨折8名、持病5名、肺炎3名、発病3名、感染症3名、その他3名

	区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	令和6年度	要支援	1	1	0	0	1	3	3	2	2	2	2	0
	要介護	3	6	5	4	1	1	5	4	5	2	3	6	45
令和5年度	要支援	0	0	0	1	0	0	1	2	3	5	3	5	20
	要介護	3	6	2	3	5	3	0	0	1	1	1	1	26

《地域別契約状況》（令和7年3月31日現在）

緑	8	件
西淡	16	件
三原	18	件
南淡	15	件
合計	57	件

※入院中の方を含む

《居宅介護支援事業所別 依頼状況》（令和7年3月31日現在）

南あわじ市社会福祉協議会	29	件	F（三原）	1	件
A（緑）	5	件	G（三原）	8	件
B（緑）	1	件	H（西淡）	1	件
C（三原）	1	件	I（南淡）	1	件
D（三原）	3	件	J（洲本）	1	件
E（三原）	3	件	南あわじ市地域包括支援センター	3	件
合計				57	件

## ○障がい福祉サービス

《障がい支援区分別利用状況》前年度比81.0%。

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
区分1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2		14	14	14	12	10	10	9	9	8	7	7	7	121
区分3		10	11	9	10	10	10	9	9	8	7	7	7	107
区分4		3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	34
区分5		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
区分6		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5	61
計		34	35	33	32	29	29	28	28	26	24	25	24	347
令和5年度		37	35	37	35	36	36	37	36	36	35	35	33	428

《訪問回数》前年度比75.7%。

年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度		542	535	413	533	478	503	501	465	443	427	426	491	5,757
令和5年度		666	676	671	635	673	650	663	617	612	593	571	570	7,597

《契約・休止・入院・終了状況》

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
休止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
再開		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入院		1	3	2	2	2	1	0	0	1	3	2	1	18
終了		0	0	2	2	1	2	0	1	1	1	0	0	10

《地域別契約状況》（令和7年3月31日現在）

緑	0	件
西淡	2	件
三原	11	件
南淡	13	件
合計	26	件

《相談支援事業所別 依頼状況》（令和7年3月31日現在）

南あわじ市社会福祉協議会	20	件
A（三原）	3	件
B（洲本）	2	件
C（洲本）	1	件
合計	26	件

○居宅生活支援事業

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比
利用者数		4	2	3	2	3	2	1	3	2	2	2	2	28 (44)	63.6%
移動支援	延人数	8	4	4	6	7	4	1	3	2	2	2	2	45 (106)	42.4%
通所・通学 支援	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (0)	—

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

■相談支援事業所【委託相談】

障がいのある方の日常生活に関するさまざまな問題に対して相談支援を行っています。相談傾向をみると、「福祉サービスの利用等に関する支援」が依然として多く、相談の窓口として、まず委託相談につながり、相談を受けるうちに、サービス利用に結び付いたり、再びサービスを利用したいという相談が多く見られました。「不安の解消・情緒安定に関する不安」が年々増加しています。同じ方から、一日に複数回電話があることもあり、その都度不安に寄り添った支援に努めています。また、「保育・教育に関する支援」は依然と多い傾向にあり、就園や就学を見据えて、保護者のみならず、関係機関から相談に至るケースも多くなりました。

また、制度の狭間において、これまで支援機関に繋がらなかった方からの相談も多く、基幹相談支援センターと協力しながら、切れ目のない支援が提供できるよう努めました。

《過去5年間の相談者数》

対象	実人員		身体障害		重症 心身障害		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳 機能障害		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
令和6年度	134	80	23	4	0	5	19	11	66	0	24	20	3	0	4	45
令和5年度	35	34	2	1	0	1	7	3	20	0	4	13	0	0	2	13
令和4年度	36	28	15	2	0	9	32	17	81	0	16	33	0	0	5	46
令和3年度	59	31	3	2	0	0	16	7	30	1	11	11	0	0	0	12
令和2年度	45	18	4	2	2	1	14	4	19	0	8	6	0	0	3	7

福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に参加する支援	権利擁護に関する支援	その他	合計
225	106	97	131	104	84	34	20	77	13	0	26	917
106	59	47	74	76	39	7	9	36	3	0	14	470

※下段数字は、前年度のもの

■相談支援事業所【計画相談支援・障害児相談支援】

《計画相談》

障害福祉サービスの利用を希望している方を対象に、相談支援を行っています。利用者によってモニタリング期間が違っているため、月ごとの件数にばらつきがあります。サービスを希望するものの、利用に至らなかったり、続けられなかったりすることもあるため、サービスにつなげるだけでなく、個別性を重視したケアマネジメントが求められます。

令和6年度も就労に関する相談が多く、島内に新規の就労継続支援B型が複数箇所相次いで開所したこともあり、利用を希望され、計画相談につながってくる方が多くありました。今後も本人を中心とした支援がより一層求められています。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	令和6年度	66	68	56	59	60	51	68	56	59	63	51	62	719
	令和5年度	56	58	58	50	61	54	57	58	51	52	58	60	673

《児童相談》

発達に心配のあるお子さんの相談支援を行っています。手帳を持っていない未診断のお子さんのケースや、親子ともに支援が必要なケースがあります。学校や保育園から保護者の方に療育を勧めたり、乳幼児健診から医療機関につながったケースで相談支援につながることも多くみられています。

就園や就学についての相談のみならず、学級選択の相談も多くありました。また、学校生活や園生活がうまくいかないといった相談も多くありました。お子さんや保護者の気持ちに寄り添い、ライフステージに応じた支援機関につなぎ、連携をとりながら支援をすすめています。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	令和6年度	42	40	44	45	43	41	45	39	34	25	21	50	469
	令和5年度	32	32	42	37	32	37	39	47	38	43	29	56	464

《地域移行支援》【事業収入(地域移行支援サービス費)】

入所施設に入所している障がい者、又は精神科病院に入院している精神障がい者について、住居の確保その他、地域における生活に移行するための活動に関する相談、地域移行のための障害福祉サービス事業所等への同行支援等行うものです。

現在、契約中のケースはありません。

《地域定着支援》【事業収入(地域定着支援サービス費)】

居家で単身で生活する障がい者が対象で、24時間365日住み慣れた地域で生活できるように、日常生活全般を支援を行うものです。

現在、契約中のケースはありません。

■なでしこデイサービスセンター【生活介護】

稼働率は0.2%減、収入は10.8%増でした。これは、定期的なショートステイの利用や入院、体調不良による利用控えはあったものの、空き情報を利用者に周知し利用増を図るなどして安定した経営に努めたこと、令和6年度の報酬改定により、看護師や介護福祉士などの専門職の配置、重度心身障害者への対応に対する加算額の増等による結果です。

行事では初めて運動会を開催し、利用者同士や職員との交流、集団活動を楽しむことができました。また、日々の生活の中で楽しみを感じられるように、季節の行事や外出、工作、散歩などの様々なレクリエーションに取り組みました。

物価高騰により、給食の質を落とさずこれ以上経費削減することが難しく、方策について検討した結果、令和7年1月から給食費を100円値上げしました。利用者の食べる楽しみがより増すよう、これからもメニューなどの工夫をしていきます。

策定した災害時におけるBCP（事業継続計画）、感染症発生時におけるBCPに基づき、備蓄品の整備や防災訓練を実施する等、災害や感染症が発生しても、サービスが安定的・継続的に提供できるよう、引き続き体制強化に取り組みます。

《登録状況》

市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	合計	新規	0
	男性	5	6	11	中止
女性	4	6	10	終了	0

《障害支援区分の状況》

区分 利用者数	支援区分3	支援区分4	支援区分5	支援区分6	合計	平均支援区分
男性	0	2	1	8	11	5.5
女性	0	2	2	6	10	5.4

《月別利用状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所した日数	21	22	20	22	19	20	23	21	20	20	20	20	248 (246)
実人数	21	21	21	21	21	21	21	21	20	20	21	21	20.83 (20.50)
延べ利用者数	203	201	178	199	166	188	210	186	180	151	161	182	2,205 (2,191)
令和6年度稼働率(%)	96.7	91.4	89.0	90.5	87.4	94.0	91.3	88.6	90.0	75.5	80.5	91.0	88.9
令和5年度稼働率(%)	91.5	91.4	92.4	91.5	86.5	82.9	90.0	93.3	98.5	77.0	81.9	92.0	89.1

※合計欄下段（ ）中の数字は前年度のもの

《曜日別利用登録数》 1日定員10名

年度	曜日	月	火	水	木	金
令和6年度		11	11	11	10	11
令和5年度		11	11	9	10	11

《レクリエーション・行事》

「自分で好きな素材を選ぶ」等、工作の過程で自己決定支援ができるよう取り組んでおり、個性豊かな作品が生まれています。

月	内 容	月	内 容
4月	遠足（イングランドの丘）	10月	外出（買い物・喫茶）
5月	工作（写真フレーム作り）	11月	おやつ作り（パンケーキ）
6月	野菜植え	12月	クリスマス会
7月	おやつ作り（クラッシュゼリー）	1月	工作
8月	工作（ストラップ作り）	2月	節分（豆まき）
9月	運動会	3月	野菜植え



運動会



散歩



み～あの貼り絵作り



淡路自立支援協議会の『自立支援のつどい』に参加



フォトフレーム作成

■なでしこデイサービスセンター【児童発達支援・放課後等デイサービス】

【全体総括】

稼働率は7.2%、収入は16.2%増でした。これは、児童発達支援の登録者数が目標の40人を超え、経営が安定する利用者数を獲得できたこと、令和6年度の報酬改定がプラス改定（放課後等デイサービスはマイナス改定）だったことによるものです。

令和5年度に実施した家族アンケートの結果を踏まえ、下半期に2回、『家族支援セミナー』を開催しました。また、3ヵ月1クール、月1回の小集団療育も実施し、利用者や家族から「来年度も実施してほしい」と、高評価を得ました。

【全体課題】

コロナやインフルエンザ、胃腸炎など様々な感染症が季節を問わず発生し、キャンセル数は令和5年度より55件増（児童発達支援：50件、放課後等デイサービス：5件）でした。キャンセルでできた穴を埋めるのは難しく、施設が感染源にならないようリスク管理する以外に手だてがありません。

ケース数の増加に伴い、療育の課題準備や実施記録などに要する時間が増えています。また、新規事業立ち上げのための会議や準備に時間を要し、残業時間も増えています。そのため、勤務時間内に外部研修を受講することが難しく、職員がプライベートで受講せざるを得ない状況になっています。職員のスキルアップのための研修をどう保障するのが課題です。

島内で発達検査を実施している事業所は、当事業所と医療機関を含む4か所です。学校等から発達検査結果の提出を求められるケースが増え、4機関ともに検査予約を取るまでに約2ヵ月（検査結果返却まではさらに1～2ヵ月）を要するのが現状で、検査依頼を断わらざるを得ないこともあります。淡路障害者自立支援協議会「こども部会」で現状を共有しましたが、児童の学級選択等に支障が出ないよう、家族や関係機関との丁寧な連携が求められています。

策定した災害時におけるBCP（事業継続計画）、感染症発生時におけるBCPに基づき、備蓄品の整備や防災訓練を実施するなど、災害や感染症が発生しても、サービスが安定的・継続的に提供できるよう引き続き体制強化に取り組みます。

☆児童発達支援

【総括】

新規利用者は14名、登録者数は8名、延べ利用者数は137名、報酬は30.2%増でした。登録者は47名となり、目標登録者数は達成しました。心理士による療育を行っている施設が限られているため、当事業所に求められている役割は大きいと言えます。

【課題】

登録者数が増えた反面、特定の曜日（土曜日の稼働率は112.1%）や時間枠へ利用希望が集中し、特に共働きの家庭の希望回数を保証することが難しくなっています。職員が過労働に陥ることなく予約調整できるようなスケジュール調整が必要です。

《登録状況》

市別	南あわじ市	洲本市	淡路市	計
利用者数				
男児	20	15	1	36
女児	7	4	0	11

《月別利用状況》 ※稼働率は、児童発達支援と放課後等デイサービスの両サービス合わせたもの

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所した日数	20	19	20	20	20	19	21	19	20	19	17	19	233 (231)
実人数	35	34	35	37	36	41	45	43	43	44	43	42	478 (372)
延べ利用者数	93	79	93	93	96	92	107	103	107	107	102	100	1,172 (917)
令和6年度稼働率(%)	87.1	79.5	84.0	82.9	85.7	84.3	87.3	85.7	91.5	94.5	95.8	91.5	87.4
令和5年度稼働率(%)	77.5	76.5	71.0	79.5	79.5	76.7	79.0	84.5	86.0	82.0	83.3	91.0	80.2

※合計欄下段( )中の数字は前年度のもの

《その他の活動状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業所見学	0	3	2	1	2	1	0	0	0	1	2	0	12 (26)
インテーク	3	1	3	1	1	4	0	0	0	0	1	1	15 (15)
保育所等訪問	0	0	0	1	2	2	1	0	1	1	0	0	8 (11)
個別支援会議	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4 (3)
個別相談	2	0	1	2	1	0	0	1	0	0	0	3	10 (5)
発達検査	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4 (6)

※合計欄下段( )中の数字は前年度のもの

☆放課後等デイサービス

【総括】

新規利用者は7名、登録者数は4名減、延べ利用者数は70名減、報酬は1.5%減でした。令和6年度の報酬改定で基本単位が5%減になったこと、予約枠が少なくキャンセルや中止後の調整が難しいことが影響しています。

【課題】

年度途中で利用中止になるケースが5件あり、その内目標を達成して終了したケースは1件でした。登録者数が90名を超え月1回程度の利用となるため、本人や家族のモチベーションを保ちながら療育の成果をわかりやすく伝えるスキルが求められるとともに、何故終了に至ったのかを検証し、明確になった課題を今後の療育に生かすことが必要です。

《登録状況》

市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	淡路市	島外	計
男児	38	28	2	1	68
女児	13	12	0	0	25

《月別利用状況》 ※稼働率は、児童発達支援と放課後等デイサービスの両サービス合わせたもの

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所した日数	17	18	16	17	17	18	18	18	16	17	16	16	204 (200)
実人数	82	82	70	76	74	77	76	69	74	73	73	69	895 (942)
延べ利用者数	90	88	75	81	84	85	85	77	76	82	80	83	986 (1056)
令和6年度稼働率(%)	87.1	79.5	84.0	82.9	85.7	84.3	87.3	85.7	91.5	94.5	95.8	91.5	87.4
令和5年度稼働率(%)	77.5	76.5	71.0	79.5	79.5	76.7	79.0	84.5	86.0	82.0	83.3	91.0	80.2

※合計欄下段( )中の数字は前年度のもの

《その他の活動状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
事業所見学	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	6 (12)
インテーク	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	5 (6)
学校等訪問	0	1	0	1	0	0	1	0	0	2	1	0	6 (13)
個別支援会議	1	0	1	0	2	1	1	0	1	0	0	1	8 (11)
個別相談	0	0	1	0	0	2	1	5	0	0	0	2	11 (8)
発達検査	0	0	1	2	3	1	0	0	0	2	0	0	9 (6)

※合計欄下段( )中の数字は前年度のもの

●地域で生活を支えるしくみをつくろう

■制度外サービスの創出

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	ニーズ調査の結果や、個別の相談対応を通じて把握した住民の声に対応できるようにしています。新たな活動を生み出すために、行政・ボランティア団体や関係機関と情報共有し、把握した地域課題に対応できる取り組みについて検討していきます。
---------------------------	--

■オール社協会議

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	地域住民の相談や課題を組織内で検討する全職種参加の事例検討を、月2回旧4町のエリア別で実施しました。今後も組織内で連携し、地域生活支援と地域支援を一体的にすすめていけるよう継続していきます。
---------------------------	---

## 活動目標⑧「災害にも強いつながりづくりをすすめよう」

### <活動の目的・ねらい>

突発的な災害が起きると日常生活への住民の不安や福祉課題が表面化し、混乱も生じます。刻一刻と情報も更新されていく中、行政やボランティア、関係団体と協働し、日頃から防災意識を高め、備えや地域での助け合いを啓発し、災害に強い地域を目指します。

### ●災害時に対応できるしくみをつくろう 【補助金】

#### ■防災訓練への参画

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	11月17日に南あわじ市総合防災訓練に参加しました。災害ボランティアセンターの活動を展示したほか、当事者、社会福祉法人連絡協議会と連携して避難所の環境アセスメントを行いました。 また、阿万地区では地区単独の防災訓練があり、参加しました。小学校と連携し、福祉的な支援が必要な方の避難方法について学ぶ場づくりを行いました。
---------------------------	--

### ●防災について考える機会をつくろう 【会費】

#### ■防災研修会の実施

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	みどり支部運営委員会では、1月18日に「ぼうさいカフェin緑」を実施し、「南あわじ市における大規模災害対策について」南あわじ市危機管理課より報告いただき、グループワークでは、大規模災害時での被害想定や備蓄や避難ルートなどについて話し合いました。
---------------------------	--

#### ■防災意識の啓発

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	自助・共助の力を強化していく取り組みを実践していくために、地域の集いの場や「ふれあい・いきいきサロン」に訪問し、防災対策の必要性を啓発しました。令和6年度も、災害時に役立つパッキングや話し合いの場を通じて、防災意識の向上に向けた取り組みを行いました。今後も災害にも強い地域づくりにをを目指し、活動していきます。
---------------------------	---

### ●「支え合い（防災）マップ」づくりに取り組もう 【会費】

#### ■支え合い（防災）マップづくり

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	平成29年から支え合いマップづくりを推進しています。マップづくりを通じて、普段話す機会の少ない支え合いや防災について話し合い、防災意識を向上させるきっかけとなるように働きかけました。 市民交流センターにも必要性を呼びかけましたが、マップづくりには至りませんでした。自分ごととして考えてもらえる働きかけができるかが課題となっています。今後も、行政と連携し住民へ意識啓発を行っていくツールとして支え合い（防災）マップづくりを推進していきます。
---------------------------	--

## 活動目標⑨「新しい活動を生み出そう」

### <活動の目的・ねらい>

生活スタイルの変化や新型コロナウイルスの出現により、人とのつながりや活動の形が大きく変わりました。今あるつながりを切らさないように、そして地域の現状や課題を把握しながら、これまでとは違う新しい形での、つながり、支え合いづくりをすすめていきます。

## ●新しい活動を生み出す話し合いの場をすすめよう 【会費】

### ■地域福祉推進計画の推進と評価

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	令和6年度が第4次地域福祉推進計画の中間期に当たるため、評価委員会を開催しました。職員で評価した結果を提示し、委員のみなさんからご意見をいただきました。評価作業を通じて、1つ1つの活動の意義や目的を再確認でき、新たな視点にも気づくことができました。評価の結果を、令和7年度事業計画に反映し活動をすすめていきます。
---------------------------	--

### ■包括的支援体制に向けた取り組み

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	地域包括支援室、市民協働課と情報共有しながら、地域に向けた働きかけを行いました。令和6年度は、市民交流センター長会にて小地域福祉活動をすすめるための働きかけを行いました。まちづくりと一体的にすすめていけるように、エリア設定や会議の連動性を意識した活動に取り組みました。孤立する人がない地域づくりを実現するために、これからも検討を重ねてきます。
---------------------------	---

### ■つながりワーカー養成講座

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	「地域でちょっと気になる人」に気づき、「さりげなく」支えていくために、地域やご近所の見守り・支え合い活動を推進することを目的に中央共同募金会の「つながりワーカー養成および実践活動助成」を活用し、市内5か所ですながりワーカー養成講座を実施しました。
---------------------------	---

月日	開催場所	参加者数	参加者内訳
R6.10.25	福良地区公民館	22名	民生委員、民生協力員、ボランティア、銀行職員など
R7.2.21	広田地区公民館	17名	民生委員、民生協力員、ボランティア、生命保険会社職員など
R7.2.25	賀集地区公民館	22名	民生委員、民生協力員、ボランティアなど
R7.3.6	湊地区公民館	10名	民生委員、ボランティアなど
R7.3.14	市地区公民館	10名	民生委員、ボランティアなど

## ■つながり座談会

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	つながりワーカー養成講座受講者を対象に、日常生活の中で気になる方や、見守り活動上での課題、これから身近に取り組めることを気軽に話し合える場として、市民交流センターごとなど身近な地域で座談会を開催しました。
---------------------------	--

月日	地域	話した内容	参加者数
R7.2.14	福良	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りとおせっかいの線引きが難しい</li> <li>・気になることを相談できる場が身近にない</li> <li>・小学校の一室でいきいき百歳体操を始めた</li> </ul>	18名
R7.3.17	賀集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンションやアパート入居者の情報が少なく気になるエリアになっている</li> <li>・若い世代との関わりが少ない</li> </ul>	7名
R7.3.19	広田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍の方が増えてきた。生活に困っていないか気になる</li> <li>・若い世代との関わりが少ない</li> </ul>	5名
R7.3.21	倭文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員活動中で気になることや悩みを相談できる場がなかった</li> </ul>	2名

## ●さまざまな人・団体との新しいつながりを広げよう

### ■福祉分野以外とのネットワーク強化

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	地域福祉の推進には、幅広い主体や社会資源がつながるしくみが必要です。具体的な取り組みには至っていませんが、今後は司法の専門職や企業、NPOなどとのネットワークを構築していけるように取り組んでいきます。異業種交流で新たな視点を取り入れた活動を展開していきます。
---------------------------	---

### ■移住してきた方との地域での交流の場の検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	令和5年度の「移住者や若者の地域参加」をテーマに開催した地域福祉フォーラムから、阿万地区・福良地区を中心に移住してきた方へのヒアリングを行いました。今後も、移住者同士のネットワークへ参加し関係性を深め、今後の地域福祉活動に活かしていきます。
---------------------------	--

## ●地域の資源や情報を見える形で整理しよう

### ■地域の活動の場パンフレットの作成

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	いくつになっても生きがいをもって活躍し支え合える地域づくりのために、市が「高齢者のための暮らしの情報誌」を発行しました。社協でも第2層生活支援コーディネーターが中心となり、活動の場や生活支援サービスの情報収集を行いました。必要な人に必要な情報が届けられるよう、さまざまな機会や手段を通じて情報発信していきます。
---------------------------	---

## ◎「活動をすすめるための組織基盤づくり」

南あわじ市の地域福祉をすすめるため、計画的に職員を採用し配置するとともに、必要な専門性を身につけられる機会をつくります。また、役職員がともに福祉目標の実現に向けてすすめるよう、理事監事会、評議員会の活性化を図ります。

### ●職員の人材確保と育成をすすめます

#### ■人員配置の検証に基づく職員採用

《職員採用状況》

採用年月日	部署	職名	氏名	雇用形態
R6.4.1	地域生活支援部		柳 尚孝	常勤嘱託
R6.6.1	地域生活支援部		荒木 千恵	常勤嘱託
R6.9.1	在宅福祉サービス部	生活支援員	西岡 奈美	非常勤
R7.3.11	在宅福祉サービス部	訪問介護員	槇本 典子	常勤

#### ■研修計画に基づく研修の実施

研修班を中心に年間計画を立て、内部研修を企画・実施しています。部署を超えてともに考えたり共有したりする機会を持つことで、職員のレベルや法人内の質の向上を図っています。

外部から届く研修の案内は全職員に周知し、上席から研修受講を指示する以外にも、自ら学びたいという意思を尊重するようにしています。「研修受講準備&報告書」のシートを用いて研修受講前には目標を事前に記入し、研修後に学んだこと・事前目標の評価・今後職務に活かせる点について記入、提出し、上席がコメントを記入して返しています。また、内部で伝達研修を行ったり、内部研修で受講したことを活かしています。

《内部研修》

月日	研修テーマ	出席者数
R6.4.23	安全運転講習	41名
R6.5.17	接遇マナー講習	42名
R6.7.19	介護現場におけるハラスメント	36名
R6.8.23	コンプライアンスについて	40名
R6.9.24	ハザードマップと災害への備え（BCP研修・訓練）	41名
R6.11.15	感染症対策について（感染症対策研修、BCP研修・訓練）	41名
R6.12.20	社協について（各事業の業務について）	35名
R7.1.17	認知症ケア研修	23名
R7.2.18	アンガーマネジメントについて	39名
R7.3.21	虐待防止・身体拘束防止研修	36名

《外部研修》

月日	研修等の名称	参加者	集合・オンラインの別
R6.5.1	日常生活自立支援事業 令和6年度 新任専門員研修会	中野寛	集合
R6.6.5	安全運転管理者等講習会	長井	集合
R6.6.11	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修	山口愛	オンライン
R6.6.16	2024年度定時社員総会 相談支援に関する講演会	新地	集合
R6.6.19	兵庫県ホームヘルプ事業者協議会 管理者研修	森	オンライン
R6.6.20	はじめて福祉の仕事に就く人のための研修（基礎編）	中野寛	オンライン
R6.6.28	令和6年度第1回南あわじ市特別支援教育 コーディネーター・ネットワーク会議	新地・田中・山田	集合
R6.6.29	第21回全国社協職員のつどい 京都大会2024	奥井・箕浦	集合
R6.7.4~5	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修	山口愛	集合
R6.7.4	自立支援協議会こども部会支援者研修	北川・新地・山田	集合
R6.7.7	社会福祉施設における権利擁護擁護と意思決定支援	畠中	オンライン
R6.7.26	運営指導・監査等の行政対応セミナー	松本	オンライン
R6.7.31	はじめて福祉の仕事に就く人のための研修（実践編）Aコース	中野寛	
R6.8.29 R6.9.24、30	令和6年度厚生労働省認定調査員フォローアップ研修	新地・中野陽・山田	オンライン
R6.9.5	発達障害のある方の相談支援にあたる支援者研修会	新地・中野陽・山田	集合
R6.9.6	令和6年度兵庫県相談支援従事者基礎研修	中野陽・山田	集合
R6.9.13	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修	畠中	オンライン
R6.9.25~26	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修	畠中	集合
R6.5.24	包括的な支援体制・重層的支援体制整備事業セミナー	江本	オンライン
R6.9.13	生活困窮者等へのアウトリーチ型法律相談の活用法研修会	江本	オンライン
R6.10.3	日常生活自立支援事業 令和6年度第1回専門会議	山本	集合
R6.10.7	令和6年度淡路圏域障害福祉サービス従事者研修	山田・北川	集合
R6.10.16	安全運転管理者等講習会	桑田	集合
R6.10.18	生活困窮者自立支援制度 支援ツールセミナー ～支援ツールの意義と使い方を知る～	江本	オンライン
R6.10.18~R7.1.18	介護支援専門員更新研修（研修過程Ⅱ）6日間	濱田	オンライン 集合
R6.10.18~R7.2.6	介護支援専門員更新研修（研修過程Ⅱ）6日間	松山	オンライン 集合
R6.10.22	令和6年度淡路圏域地域SOSキャッチ専門研修	新地	集合
R6.10.21	相談支援スキルアップ研修会	奥井	集合
R6.10.23	令和6年度兵庫DWAT養成（応用）研修	平見・森・新地・濱田	集合

R6.10.31	超短時間雇用モデルと地域でのインクルーシブな働き方	江本	集合
R6.10.31	淡路障害者自立支援協議会 はたらく部会研修	新地・北川	集合
R6.10.31	令和6年度第4回洲本市介護支援専門員研修会 (相談支援専門員との合同研修会)	田中	集合
R6.11.9.10	第11回生活困窮者自立支援全国研修交流大会	江本	オンライン
R6.11.14	日常生活自立支援事業令和6年度生活支援員研修	赤松	集合
R6.11.21	兵庫県児童虐待対応研修	北川	オンライン
R6.11.19	兵庫県ホームヘルプ事業者協議会 第1回サービス提供責任者研修	森・奈良	オンライン
R6.11.23	淡路障害者自立支援協議会理解促進研修 チームで支える意思決定支援	平見・森 他4名	集合
R6.11.26	令和6年度 アルコール研修会	新地・田中	集合
R6.11.27	地域資源を存分に活用した大東市の総合事業について	平見・森・松本・川口	集合
R6.11.30	兵庫DWAT養成(基礎)研修	新地・長井	集合
R6.12.1	第9回 小児在宅医療講習会	新地	オンライン
R6.12.8	令和6年度兵庫県高次脳機能障害リハビリテーション講習会	新地	オンライン
R6.12.9	令和6年度淡路圏域相談支援従事者研修 現任者フォローアップ研修	新地・中野陽・山田	集合
R6.12.15	令和6年度医療的ケア児支援者研修	北川・新地・山田	集合
R6.12.16	ほっとねっと研修会 誰ひとり取り残さない地域づくりを目指して 重層的支援体制整備事業について知ろう!	平見・森・新地 長井・江本	集合
R6.12.18	令和6年度サービス管理責任者等部会 「虐待防止・権利擁護研修」	新地・田中・北川	オンライン
R6.12.19	令和6年度医療的ケア児等コーディネーター フォローアップ研修	新地・山田	オンライン
R7.1.18	淡路島の社会福祉協議会 新年のつどい	平見・森 他10名	集合
R7.2.7	テーマ別研修(若年層が抱える課題とその支援)	江本	オンライン
R7.2.15	令和6年度相談支援従事者育成研修 相談支援を“つなぐ”研修	平見・森・新地・濱田	集合
R7.2.15	第16回全国校区・小地域福祉活動サミット	長井・川口	オンライン
R7.2.27	第3回社協ワーカー実践研究会議	長井	集合
R7.3.3	令和6年度淡路地区 居宅介護支援事業所・地域密着型サービス事業所等集団指導	森・松本	オンライン
R7.3.7	令和6年度生活福祉資金貸付事業担当者会議	奥井	集合
R7.3.13	兵庫県ホームヘルプ事業者協議会 第2回サービス提供責任者研修	森	オンライン
R7.3.19	令和6年度介護保険サービス事業者等 集団指導	森	オンライン

《会議を活用した職場内研修》

研修・会議等の名称	内容	開催頻度等
局長部長会議	人事や法人の運営にかかる重要案件を協議	月1回
管理職会議	各部からの報告・感染症対策や法人運営の課題を協議	月1回
オール社協議	各支部での情報共有、個別ケースから見える地域課題等	週1回
ワーカー連携会議	各ワーカーからの報告、協議、確認等	週1回
ケアマネ会議	研修計画に基づく研修の実施・運営に関すること・ケースの共有、検討	週1回
相談支援専門員会議	多職種参加によるケースの共有と困難事例の検討	週1回
ヘルパー定例会	研修計画に基づく研修の実施・運営に関すること・ケースの共有、検討	月1回
なでしこミーティング (児童)	運営に関すること、予約状況の確認、ケース検討等	月2回・年3回(研修)
なでしこミーティング (生活介護)	研修計画に基づく研修の実施・運営に関すること・ケース検討等	月1回

■表彰

受賞者・団体(敬称略)	表彰名・大会等	表彰の内容
平見明子	兵庫県知事表彰(永年勤続) 第72回兵庫県社会福祉大会	社協職員として 20年以上従事した者
奥井恵子		
桑田艶子		
阿部昌弘	兵庫県社協会長表彰(役員の部) 第72回兵庫県社会福祉大会	社協役員として 就任が10年以上の者
船本恵司		
登里倭江		
江本由佳	兵庫県社協会長表彰(永年勤続) 第72回兵庫県社会福祉大会	社協職員として 15年以上従事した者
二瓶はるみ		
森下佳英子		

《兵庫県共同募金会会長感謝》

2年以上におよび功労が顕著であるもの

受賞者・団体
南あわじ市立広田中学校
南あわじ市立南淡中学校
南あわじ市立湊幼稚園
南あわじ市立榎列保育所
南あわじ市立市こども園
南あわじ市立賀集保育所

■実習生の受け入れ

期間	目的	人数	活動内容
令和6年4月4日～ 令和6年4月17日 (3日間、15時間)	介護支援専門員 実務研修実習	1名	ケアマネジメントプロセスについての 実践場面の見学・学習

### ■資格取得の奨励

部署	氏名	資格名	受講日数	備考
生活介護	畠中 真代	サービス管理責任者	3日	実践者研修修了
生活介護	山口 愛理	サービス管理責任者	3日	実践者研修修了

### ■目標シートの活用

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	自分のスキルやモチベーションを高めることを目的に、全職員が年間目標を設定して業務にあたっています。現状は各部署の管理者で目標設定時の個別面接、自己評価・上司評価後のフィードバック面接をしています。 令和7年度から運用できるよう人事考課制度の構築について検討しています。
-------------------------------	---

### ■メンタルヘルスの取り組み

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	毎年、全職員対象にストレスチェックを実施しフィードバックしています。セルフチェックを行うことで、自分の心の状態や健康状態をよく理解し、ストレスと上手に付き合う方法を学び、不調を未然に防げるよう取り組んでいます。
-------------------------------	---



接遇マナー講座



災害対策研修

## ●法人のガバナンス強化（労働環境・法人の価値・収益率）をすすめます

### ■関連各法を遵守した運営

取り組み内容 （成果・課題・ 今後の方向性等）	「職業倫理」「コンプライアンス」「プライバシー保護」の関係各法の遵守については毎年1回内部研修を開催し、また、県や市が開催する各サービスの集団指導も受け、健全な法人（事業）運営に努めています。所有する資格・各職種・各事業、それぞれに倫理規定や関係各法の理解、それらを遵守して仕事にあたることの必要性を再確認しています。
-------------------------------	---

### ■理事会、監事会、評議員会の活性化

#### 《理事監事会》

（ ）内数字は、監事の出席人数

R6.6.7	<b>【報告事項】</b> ①令和5年度一般会計収支予算第3次補正について <b>【審議事項】</b> ①令和5年度事業報告について ②令和5年度一般会計収支決算について ③監事監査結果について ④定時評議員会の日程及び審議事項について ⑤理事候補者について ⑥評議員候補者等について	11/13 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R6.8.1	<b>【報告事項】</b> ①旧法務局跡地活用の進捗について ②消費税課税（非課税）事業について ③その他 ・コロナ特例貸付免除額について ・社協会費について ・なでしこデイサービスセンター嘱託医契約について ・職員の退職について <b>【協議事項】</b> ①社協まるわかりブック（案）について	13/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R6.9.9	<b>【報告事項】</b> ①旧法務局跡地活用の進捗について ②訪問介護事業所の体制について ③その他 県社会福祉大会 社協内表彰者紹介 <b>【審議事項】</b> ①設計管理委託契約について ②旧法務局跡改築工事に伴う資金計画、担保提供及び連帯保証人について <b>【協議事項】</b> ①重層的支援体制整備事業について ・そもそも重層的支援体制整備事業とは ・社協からの3つの提案について	10/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R6.11.1	<b>【報告事項】</b> ①緑ボランティア連絡会からの蓄電池等の寄贈について ②南あわじ市子育てコンソーシアムの オブザーバー参加について ③訪問介護事業所 サービス提供日・サービス提供時間の変更について ④なでしこデイサービスセンター食材費の変更について <b>【演習】</b> つながりワーカー養成講座 （動画視聴・グループワーク）	12/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室

R6.12.12	<p><b>【報告事項】</b></p> <p>①理事の退任について</p> <p>②令和6年度上半期事業報告について</p> <p>③令和6年度上半期決算報告について</p> <p>④監事監査結果報告について</p> <p><b>【協議事項】</b></p> <p>①令和6年度第1次補正予算案について</p> <p><b>【審議事項】</b></p> <p>①重度訪問介護ならびに行動援護事業の指定取り下げについて</p> <p>②評議員候補者について</p> <p>③評議員会の日程及び審議事項について</p>	11/14 (1)	南あわじ市社協 203会議室
R7.3.18	<p><b>【審議事項】</b></p> <p>①令和6年度第2次補正予算案について</p> <p>②法務局跡改修工事入札結果及び契約の締結について</p> <p>③固定資産(基金)の取り崩しについて</p> <p>④令和7年度事業計画案について</p> <p>⑤令和7年度一般会計収支予算案について</p> <p>⑥福祉推進ネットワーク会議設置規程案について</p> <p>⑦評議員会の日程及び審議事項について</p> <p><b>【報告事項】</b></p> <p>①役員等の改選スケジュールについて</p>	10/14 (2)	南あわじ市社協 203会議室

《監事監査》

月日	内容	場所
R6.5.28	<p><b>【総評】</b></p> <p>令和5年度の活動について一定の評価をしたうえで、南あわじ市の地域福祉をさらに推進するための期待を込め、次のとおり監事会として意見を述べる。</p> <p>①協議や機会の場づくりは地域福祉を推進するうえで重要である。多様な立場の委員が参画する支部運営委員会などのさらなる活性化に努めること。</p> <p>②近年、老人クラブ数、会員数とも減少傾向にある。これら地域の現状を把握・可視化し、ふれあい・いきいきサロンなど地域住民が出会い、関係性を構築できるようなたらきかけること。また、当事者の社会参加やセルフヘルプ(自助)グループの組織化支援にも努めること。</p> <p>③災害等緊急時に適切な対応を図り事業が継続できるようBCP(事業継続計画)に基づく研修や訓練に努めること。また、職員はもとより役員としても内容を共有すること。</p> <p>④地域福祉をすすめるうえで職員の計画的な採用と定着に向けた取り組みは重要である。ハラスメント研修などを通してより良い環境づくりに努めること。</p> <p>⑤社協の運営基盤を支えるのは「会費」や「共同募金」などの自主財源である。これらは地域住民の理解あつてのものなので、連合自治会の大会などにおいて自治会長へはたらきかけるほか、市民協働課と協働して自治会加入の促進と地域コミュニティづくりに努めること。</p> <p>⑥BCPの義務化など年々法整備がすすむ傾向にあつては、司法など専門職との連携は不可欠である。また、それら専門職との連携により職員の業務の効率性や負担も軽減できると考えられる。社協は公共性の強い団体であるので、それら専門職との連携とネットワークづくりを積極的にすすめること。</p>	南あわじ市社協 203会議室

R6.11.12	<p>【総評】  地域生活課題が多様化複雑化する中で社会福祉協議会が取り組んできた活動は一定の評価ができるが、これからの南あわじ市の地域福祉を推進するにあたり、より一層重要な役割を担うことを期待し、次のとおり監事会としての意見を述べる。</p> <p>①人口減少社会にあって福祉介護人材の確保と養成は喫緊の課題である。サービスや支援を必要とする利用者などに適切なサービスが提供できるよう、福祉介護人材の養成・確保について行政や関係機関との協議に努めること。</p> <p>②介護職員初任者研修の共同開催など過去の成功事例を参考に現状に応じた具体的な取り組みを検討すること。</p> <p>③また、職員の定着と健全な事業運営を図るため、現状の職員体制のあり方を評価したうえで、必要に応じ体制の再構築に向けた協議に努めること。</p> <p>④体制の再構築にあたっては、「103万円の壁の撤廃」や「ワークライフバランス」など、働き手が求める職場環境に対する意識も変化しているため、こうした状況にも配慮すること。</p> <p>⑤地域福祉をすすめるうえで要となる非採算部門の職員人件費の公費補助ルールづくりの構築に向け具体的に取り組むこと。たとえば、社協財源の基盤となる「福祉コミュニティ推進事業補助金」は合併以降据え置かれたままであるが、この補助金は固定化されるべきものではないと考える。職員の昇給や最低賃金の改定等に応じた増額を、根拠を示し要望すること。</p> <p>⑥年次計画に基づき実施する活動については、本来目的を常に確認するとともに社会情勢の変化や住民・当事者などのニーズに応じてブラッシュアップに努めること。</p> <p>⑦架け橋パントリー事業のように市の広報紙の特集記事として掲載されることで、社協の存在や役割・価値が多くの人に理解されるので、今後も積極的に様々な媒体を通じた周知に努めること。</p>	南あわじ市社協 203会議室
----------	--	-------------------

《評議員会》

( ) 内数字は、役員の出席人数

月日	内容	出席者数	場所
R6.6.27	<p>【報告事項】  ①令和5年度一般会計収支予算第3次補正について</p> <p>【審議事項】  ①令和5年度事業報告について  ②令和5年度一般会計収支決算について  ③監事監査結果について  ④理事の選任について</p>	24/28 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R7.1.16	<p>【審議事項】  ①令和6年度上半期事業報告について  ②令和6年度上半期一般会計収支決算報告について  ③監事監査結果報告について  ④令和6年度第1次補正予算について  ⑤理事の解任について</p>	25/28 (2)	南あわじ市社協 203会議室

R7.3.26	<b>【審議事項】</b> ①令和6年度第2次補正予算案について ②固定資産（基金）の取り崩しについて ③令和7年度事業計画について ④令和7年度一般会計収支予算案について <b>【報告事項】</b> ①役員等の改選スケジュールについて ②法務局跡改修工事入札結果及び契約について	24/28 (2)	南あわじ市社協 203会議室
---------	---	--------------	-------------------

《評議員選任・解任委員会》

月日	内容	出席者数	場所
R6.6.21	<b>【審議事項】</b> 第1号議案 評議員の解任について 第2号議案 評議員の選任について	5/5	書面開催
R6.12.21	<b>【審議事項】</b> 第1号議案 評議員の解任について 第2号議案 評議員の選任について	5/5	書面開催

《支部長会議》

月日	内容	出席者数	場所
R6.6.7	①支部運営委員会の情報共有 ②社会福祉助成事業（共同募金配分について）	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R6.8.1	①支部運営委員会の情報共有 ②支部運営委員会について	4/4	南あわじ市社協 202会議室
R6.9.9	①支部運営委員会の情報共有 ②重層的支援体制整備事業について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R6.11.1	①支部運営委員会の情報共有	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R6.12.12	①支部運営委員会の情報共有 ②福祉推進ネットワーク代表者会議設置規程（案）について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R7.2.26	①福祉推進ネットワーク代表者会議設置規程（案）について	3/4	南あわじ市社協 203会議室
R7.3.18	①支部運営委員会の情報共有 ②地域福祉推進ネットワーク会議設置規程（案）について	3/4	南あわじ市社協 203会議室

## ■内部牽制体制の点検

事故や苦情があったことは報告書にまとめ、管理職・部署内で共有し、同じミスを繰り返さないように改善策を検討しながら運営しています。今後もヒヤリハットも含めて軽微な事故や異常の時点で予防策を考え、重大な1件の事故を防ぐよう努めていきます。

部・所名	種別	件数	主な内容
総務・地域	苦情	0	
	事故	9	届出漏れ、書類紛失、車輛事故、手続きミス、鍵返却忘れ
訪問介護	苦情	6	サービス内容への不満 他
	事故	14	サービスの未提供、車輛事故、誤嚥、火災、行方不明、職員への暴行、紛失
居宅介護支援	苦情	0	
	事故	1	車輛事故
相談支援	苦情	1	職員の不適切な対応
	事故	0	
生活介護	苦情	0	
	事故	24	外傷、返却間違い、紛失、車輛事故、器物破損、食数不足、転倒、利用者間のトラブル、外傷 他
児童・放デイ	苦情	1	サービス内容への不満
	事故	2	書類の渡し間違い、外傷

### 【改善に着手した内容と成果】

※苦情・事故の有無に関係なく改善に着手したものを記載しています。

部・所名	着手した点	内容と成果
総務・地域	内部会議で事故等を情報共有し、再発防止に向けた具体的な方法を検討	苦情・事故内容を共有し、改善に向けた意見交換を行う。互いにチェックし合える体制づくりに努めるとともに、一人ひとりの意識を高めるため内部研修を受講した。 日常業務の点検を強化し、担当職員だけで業務を抱え込むことがないよう、業務の共有と見える化に取り組んでいる。
訪問介護	サービス提供記録の書き方	毎訪問時に実施したサービス内容を記録する「サービス提供記録」には、たくさんの目的があり、重要性の高い書類であることを再確認した。また、実際の記録などから具体例を示し、どのようにすれば改善されるかを学んだ結果、サービス提供記録の質が向上しつつある。今後も、具体例を示しながら、より良い記録ができるよう取り組んでいく。

居宅介護支援	より広い視野でのケースの関わり方、支援方法について	障害福祉サービスの制度に関する研修の実施、ヤングケアラーの研修会への参加により、広い視野でケースでの捉え方や関わり方について学ぶ機会となった。当事者がおかれている背景の理解、必要な関係機関の窓口などを確認できた。
相談支援	事業所ミーティングの定例化（毎月実施） 支援の見直し	苦情内容についてミーティングにて共有し、支援について見直しを行った。また、意思決定支援などの外部研修にも参加し、支援の基本となる本人中心支援について再度徹底を行った。
生活介護	利用者対応マニュアルの見直し 集団活動	新任職員も含め全職員が利用者への対応を統一し、サービスの質が担保できるよう、「利用者対応マニュアル」の見直しを実施した。 利用者同士の交流や心身のリフレッシュ、集団活動を目的に「運動会」を実施した。
児童・放デイ	家族支援の強化 小集団活動 他部署との協同	令和5年度に実施した家族へのアンケート結果を基に、「家族支援セミナー」を2回、小集団療育を3ヵ月1クール月1回実施した。 地域生活支援部の職員を講師に「メモの取り方」について研修を実施し、記録に要する時間短縮につなげた。

#### ■ 諸規定の点検と改定

<p>取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)</p>	<p>労働基準監督署による是正勧告を受けて、労使協定書の作成・周知、事業所外研修参加時の勤務管理の変更・周知を行いました。また、勤務時間・休憩時間などに関する見直しを行い、令和7年4月に職員への周知できるよう検討を重ねました。職員が働きやすい職場環境づくりに向けて、諸規定の点検と改訂をすすめています。</p>
-----------------------------------	---

#### ■ 旧法務局跡の改修

<p>取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)</p>	<p>旧法務局跡地では、障害福祉サービスの生活介護を軸とした地域交流拠点に改修することが決まりました。</p> <p>7月5日・6日には、旧法務局跡地を実際に見て、活用方法について住民のみなさんのご意見をいただく機会として『OPEN DAY』を開催しました。いただいた意見を整理・集約するため、約20名あまりの方にお集まりいただき、7月30日に第1回ワークショップを開催しました。様々な立ち場の方が気兼ねなく寄り合い、交流できる場を期待する声などがあがりました。</p> <p>また、施設の名称を募集したところ、全国から約200件の応募がありました。「みんなの居場所について話そう会」と題し、3月19日に第2回ワークショップ開催し、その中で施設の名称の審査を行い、『ふらっとほらむ』に決定しました。</p> <p>令和7年4月から改修工事が着工します。今後も、住民のみなさんとともに、地域の交流拠点づくりをすすめていきます。</p>
-----------------------------------	--

#### ■ ボトムアップのしくみづくり

<p>取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)</p>	<p>各部署で開催している定例会議では、職員が意見を出しやすい環境づくりに努めています。挙がった意見などは管理職会議で共有・検討をしています。また、内容によっては理事監事会へつなげるようにしています。</p> <p>今後も現場の声を活かした意思決定や組織運営に努め、職員の主体性やモチベーションの向上を図ります。</p>
-----------------------------------	--

## ●災害時にも対応できる体制づくりをすすめます

### ■事業継続計画（BCP）の策定

取り組み内容 （成果・課題・今後の方向性等）	令和6年4月より各サービス事業所において義務化されたBCPをもとに、研修・訓練を実施しました。 令和7年度は、社協全体のBCP策定に向けてすすめていきます。
---------------------------	---

### ■災害ボランティアセンターの設置訓練など

取り組み内容 （成果・課題・今後の方向性等）	11月の総合防災訓練では、社会福祉法人連絡協議会などと連携し、災害ボランティアセンター設置運営訓練を行いました。 能登半島地震被災地支援では、災害ボランティアセンター運営支援として1名の職員を派遣し、被災地支援にあたりました。
---------------------------	--

### ■広域訓練や研修への参加

取り組み内容 （成果・課題・今後の方向性等）	これまで、能登半島地震などの被災地支援に、複数の職員が行き、様々な活動を行ってきました。これらの活動の報告と、活動から得た事や今後に活かすべき課題についてを伝達する報告・伝達研修を内部で実施しました。また、淡路島の社会福祉協議会職員協議会でも、振り返りの研修を実施しました。
---------------------------	---

### ■災害救援機材・備品の点検と備蓄

取り組み内容 （成果・課題・今後の方向性等）	毎年行う必要な資材の補充と消火栓や避難経路などの点検のほか、令和6年度は緑ボランティア連絡会様から蓄電器と発電機を寄附いただきました。
---------------------------	---

### ■DWATについて検討

取り組み内容 （成果・課題・今後の方向性等）	能登半島地震被災地支援の経験を活かし、兵庫県主催の応用・基礎研修に洲本市と合同で参加しました。 応用研修：10月23日 基礎研修：11月30日
---------------------------	--



OPEN DAY

## ◎「活動をすすめるための基盤整備と財源確保」

### ●組織の基盤強化をすすめます

#### ■社協基盤強化計画の策定

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	組織の基盤強化に向けては、管理職会議で都度検討していますが、中・長期的な具体的な計画策定には至っていません。地域の公益的な活動に取り組む社協の継続的・安定的な運営を確保するため制度サービス部門を含む基盤強化計画の策定をすすめます。
-------------------------------	---

#### ■サポーターの増員

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	広報「わかば」の発行、FacebookやInstagramの更新、ボランティアセンターだよりの発行、ホームページを通し、社協の活動について多くの市民の方にとって頂くために広報し続けています。社協のサポーターとして地域福祉推進の活動に賛同していただける方が増えるよう、今後も世代に応じた情報発信について検討していきます。
-------------------------------	---

#### ■行政・議会とのパートナーシップ

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	11月28日に開催した早朝懇談会では、令和7年度から本格実施する「重層的支援体制整備事業」についてともに学び、トップレベルによる意見交換を行いました。
-------------------------------	---

#### ■自治会、関係団体との連携

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	募金活動や会員募集などは、自治会の理解がなければすすめていくことができません。社協活動を知っていただけるように積極的に広報活動を行い、理解者を増やしていけるように丁寧に取り組んでいます。 令和6年度は、まちづくり部局である市民協働課と連携し、市民交流センター単位へのアプローチをすすめました。 また、淡路島三市社協合同で県のトップマネジメントセミナーや視察研修（広島市基町）に参加し、役職員の交流を図りました。
-------------------------------	---

### ●財源の確保につとめます

#### ■自主財源（会費・善意銀行等）確保に向けた活動の推進

寄附者の思いを地域に返していけるように、用途を明確に示しながら理解を求めていきます。また、社協を身近に感じてもらえるようにSNSやインターネットの活用も検討し、財源の確保に向けた工夫をしていく必要があります。

《一般会費》

地区	金額(円)	件数	地区	金額(円)	件数
広田	458,500	917	神代	327,500	655
倭文	196,000	392	倭文	61,500	123
松帆	462,000	824	志知	83,100	177
湊	300,000	600	福良	706,800	1,767
津井	190,500	381	賀集	449,000	898
阿那賀	210,500	421	北阿万	259,000	518
伊加利	59,500	119	潮美台	215,000	430
志知	102,000	204	阿万	426,000	852
榎列	378,000	756	灘	103,500	207
八木	412,000	824	沼島	65,000	130
市	389,500	809	計	5,854,900	12,004

《賛助・特別会費》

	金額(円)	件数(口数)
賛助会費	35,000	35
特別会費	220,500	89
計	255,500	124



《共同募金運動への協力》

(円)

広域目標額	地域目標額	期間拡大目標額	地域歳末目標額	実績額
883,000	7,447,000	1,000	1,121,000	9,538,606



《募金内訳》

募金方法	実績額(円)	件数	
一般募金	8,383,836	12,839	
戸別募金	6,017,733	戸数	11,869 戸
街頭募金	59,792	回数	14 回
法人募金	1,838,385	件数	619 件
学校募金	166,696	学校数	35 件
職域募金	158,145	職域数	226 件
イベント募金	0	回数	0 回
個人募金	23,000	個人数	5 件
その他募金	120,085	件数	71 件
歳末たすけあい募金	1,154,770	11,888	
戸別募金	1,033,257	戸数	11,881 戸
	14,782	件数	1 件
職域募金	104,729	件数	3 件
その他募金	2,002	件数	3 件

※期間中に受入した募金のみ記載

《戸別募金(一般募金・歳末募金)》

地区	金額(円)	件数	市	金額	件数
				495,500	1,610
広田	615,300	1,775	神代	391,500	1,302
倭文	261,100	761	倭文	55,200	242
松帆	458,300	1,824	三原志知	107,800	356
湊	409,500	1,170	福良	731,000	3,534
津井	165,300	732	賀集	628,600	1,796
阿那賀	245,200	840	北阿万	362,600	1,036
伊加利	77,800	236	潮美台	231,000	660
西淡志知	115,300	408	阿万	505,890	1,686
榎列	409,000	1,468	灘	145,300	418
八木	548,800	1,636	沼島	91,000	260

《共同募金配分金の活用(配分結果)》

事業分類		件数	金額(円)	備考
高齢者	日常生活支援	2	100,000	ひとり暮らし高齢者友愛訪問・独居老人見守り事業
	社会参加・まちづくり支援	6	995,000	世代間交流での体験学習・保育園訪問・花街道整備事業・ふれあい・いきいきサロン
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	0	0	
	災害対応・防災	0	0	
	小計	8	1,095,000	
障がい児・者	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	6	420,000	障害者生活支援事業・さをり織り、書道教室・備品購入・ユニバーサルビーチ
	社会福祉施設支援	3	138,000	生活支援事業
	その他の地域福祉支援	2	14,000	聴覚者の情報保障に関わる要約筆記への支援・県聴覚団体会員として加入する
	災害対応・防災	0	0	
	小計	11	572,000	
児童・青少年	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	6	246,000	わくわく納涼祭り・親子日帰りツアー・交流イベント・高野山キャンポリー参加・デイキャンプ他
	社会福祉施設支援	1	100,000	世代間交流の夏祭り
	その他の地域福祉支援	2	145,000	子育て支援・遊び学ぶ広場を造る
	災害対応・防災	0	0	
	小計	9	491,000	
課題を抱える人	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	0	0	
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	0	0	
	災害対応・防災	0	0	
	小計	0	0	
住民その他	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	4	440,000	福祉まつり
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	30	4,690,553	地区社協・地域づくり協議会・地域のイベント・社協事業等
	災害対応・防災	0	0	
小計	34	5,130,553		
合計	62	7,288,553		

《善意銀行（寄附金）》

(ア) 金銭預託

No.	月 日	地 区	預 託 者	預 託 内 容
1	4月2日	市	山口 利子	地域福祉のために
2	5月1日	市	山口 勇	地域福祉のために
3	6月3日	市	山口 利子	地域福祉のために
4	7月1日	八木	藤江 時恵	地域福祉のために
5	7月2日	市	山口 勇	地域福祉のために
6	7月30日	広田	南あわじ市社協職員	食材無料配布事業のために
7	8月1日	市	山口 利子	地域福祉のために
8	9月2日	市	山口 勇	地域福祉のために
9	10月7日	市	山口 利子	地域福祉のために
10	10月9日	市	堀井 正弘	地域福祉のために
11	11月1日	市	山口 勇	地域福祉のために
12	11月6日	八木	喜田 久美子	地域の子どもたちのために
13	11月11日	八木	NAK淡路島支部	地域福祉のために
14	11月13日		平成淡路看護専門学校ボランティア部	地域福祉のために
15	11月29日	榎列	仁里 秋枝	地域福祉のために
16	12月2日	市	山口 利子	地域福祉のために
17	12月5日		西淡民生委員児童委員協議会	地域福祉のために
18	12月27日	八木	藤江 時恵	地域福祉のために
19	1月6日	市	山口 勇	地域福祉のために
20	1月14日	北阿万	中川勝喜・順子	地域福祉のために
21	1月28日	阿万	園生 克明	亡母の供養のために
22	2月3日	市	山口 利子	地域福祉のために
23	2月6日	阿万	高野山金剛講阿万支部	地域福祉のために
24	3月4日	賀集	池田 勉	亡父の供養のために
25	3月4日	北阿万	武岡 明美	地域福祉のために
26	3月6日	市	山口 勇	地域福祉のために
27	3月6日	広田	パソナグループ南あわじ寮自治会	地域の子どもたちのために
28	3月12日	賀集	賀集山萬福寺住職高見哲寛	亡祖母の供養として、地域の子どもたちのために

※上記以外に「匿名」での金銭預託が12件ありました。

(イ) 物品預託

品名	上半期(件数)	下半期(件数)
プルタブ	62	75
古切手	44	67
食 材	26	26
介護用品	15	17
手作り作品	9	8
書き損じはがき・ベルマーク・プリペイドカード他	91	85
計	247	278

(ウ) 払い出し

事業名	件数	払出金額(円)	内容
歩行補助器購入助成事業 (上限5,000円)	23	115,000	高齢者の介護予防の一環として、歩行補助器購入助成を行っています。
チャイルドシート・ベビーカー購入助成事業 (上限5,000円)	40	212,280	子育て支援の一環として、チャイルドシート・ベビーカー・ジュニアシート購入の助成を行っています。
安全坊や設置事業	44	61,500	交通安全活動の一環として、学校や市民の申出に基づき信号機のない交差点等の危険箇所へ安全坊やを設置しています。

※上記以外にも地域からの相談や要望に応じて、必要な払い出しを行っています。



■自主財源（事業収入）確保に向けた事業の推進

安定したサービス提供を行うためにも、実績の分析と評価を繰り返し行い、改善に向けた取り組みを共有していきます。事業運営に必要な人材確保をすすめ、適正な運営を目指します。

《介護保険サービス》

（ア）居宅介護支援事業

◆月別介護報酬の状況

（単位：円）

月	令和6年度	令和5年度	比較
4月	1,516,910	1,566,640	△ 49,730
5月	1,572,900	1,554,100	18,800
6月	1,515,000	1,517,020	△ 2,020
7月	1,681,730	1,482,790	198,940
8月	1,555,860	1,457,580	98,280
9月	1,558,860	1,373,950	184,910
10月	1,680,490	1,441,940	238,550
11月	1,607,870	1,482,400	125,470
12月	1,561,860	1,472,550	89,310
1月	1,556,100	1,453,080	103,020
2月	1,621,540	1,327,930	293,610
3月	1,620,710	1,400,060	220,650
合計	19,049,830	17,530,040	1,519,790

（イ）訪問介護事業

◆月別介護報酬の状況

（単位：円）

月	令和6年度	令和5年度	比較
4月	2,012,924	2,161,203	△ 148,279
5月	2,078,819	2,148,672	△ 69,853
6月	1,783,805	2,197,242	△ 413,437
7月	1,870,007	2,159,085	△ 289,078
8月	1,936,977	2,118,540	△ 181,563
9月	1,815,377	2,098,800	△ 283,423
10月	1,733,227	2,199,942	△ 466,715
11月	1,723,497	2,055,879	△ 332,382
12月	1,748,930	2,123,388	△ 374,458
1月	1,498,814	2,044,685	△ 545,871
2月	1,376,768	2,075,296	△ 698,528
3月	1,388,097	2,048,332	△ 660,235
合計	20,967,242	25,431,064	△ 4,463,822

《障害福祉サービス》

(ア) 居宅介護等事業(ヘルプ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	令和6年度	令和5年度	比較
4月	2,165,498	2,342,520	△ 177,022
5月	2,147,162	2,370,319	△ 223,157
6月	1,786,973	2,284,066	△ 497,093
7月	2,159,383	2,152,906	6,477
8月	1,905,636	2,253,824	△ 348,188
9月	2,034,093	2,276,767	△ 242,674
10月	1,969,000	2,309,571	△ 340,571
11月	1,846,892	2,195,718	△ 348,826
12月	1,752,030	2,079,621	△ 327,591
1月	1,713,440	1,950,708	△ 237,268
2月	1,745,480	1,942,655	△ 197,175
3月	1,994,930	2,082,535	△ 87,605
合計	23,220,517	26,241,210	△ 3,020,693

(イ) 相談支援事業

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	令和6年度	令和5年度	比較
4月	1,873,300	1,878,050	△ 4,750
5月	1,899,650	1,472,100	427,550
6月	1,362,570	1,354,520	8,050
7月	1,376,000	1,245,330	130,670
8月	1,623,300	1,481,930	141,370
9月	1,445,080	1,243,820	201,260
10月	1,496,120	1,449,630	46,490
11月	1,870,390	1,738,270	132,120
12月	1,709,930	1,604,360	105,570
1月	1,403,910	1,432,720	△ 28,810
2月	1,220,700	1,131,720	88,980
3月	1,832,650	1,694,020	138,630
合計	19,113,600	17,726,470	1,387,130

(ウ) 移動支援事業

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	令和6年度	令和5年度	比較
4月	11,400	4,995	6,405
5月	7,800	24,500	△ 16,700
6月	11,760	23,955	△ 12,195
7月	7,000	7,110	△ 110
8月	9,450	7,020	2,430
9月	4,300	15,730	△ 11,430
10月	2,700	27,690	△ 24,990
11月	9,200	9,305	△ 105
12月	7,350	20,490	△ 13,140
1月	3,500	6,210	△ 2,710
2月	7,050	6,150	900
3月	8,100	20,160	△ 12,060
合計	89,610	173,315	△ 83,705

(エ) 生活介護(なでしこ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	令和6年度	令和5年度	比較
4月	3,514,090	2,918,810	595,280
5月	3,612,230	3,092,410	519,820
6月	3,203,930	3,116,310	87,620
7月	3,556,060	2,938,000	618,060
8月	2,982,370	2,741,820	240,550
9月	3,286,870	2,826,640	460,230
10月	3,759,070	3,047,810	711,260
11月	3,343,230	3,200,140	143,090
12月	3,136,570	3,095,130	41,440
1月	2,779,130	2,570,200	208,930
2月	2,884,650	2,856,840	27,810
3月	3,222,700	3,029,600	193,100
合計	39,280,900	35,433,710	3,847,190

## (オ) 児童発達支援 (なでしこ)

## ◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	令和6年度	令和5年度	比較
4月	1,235,150	844,620	390,530
5月	1,059,090	825,810	233,280
6月	1,261,380	895,040	366,340
7月	1,257,516	923,220	334,296
8月	1,295,310	944,560	350,750
9月	1,239,874	998,531	241,343
10月	1,443,110	920,576	522,534
11月	1,396,020	1,095,121	300,899
12月	1,450,890	1,164,418	286,472
1月	1,448,790	1,110,590	338,200
2月	1,382,160	1,144,225	237,935
3月	1,363,450	1,297,104	66,346
合計	15,832,740	12,163,815	3,668,925

## (カ) 放課後等デイサービス (なでしこ)

## ◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	令和6年度	令和5年度	比較
4月	829,776	828,822	954
5月	811,797	825,932	△ 14,135
6月	717,071	713,951	3,120
7月	770,151	906,310	△ 136,159
8月	792,810	877,492	△ 84,682
9月	799,781	775,356	24,425
10月	796,300	787,973	8,327
11月	731,168	801,469	△ 70,301
12月	710,991	753,660	△ 42,669
1月	777,020	745,452	31,568
2月	994,243	793,257	200,986
3月	786,417	851,884	△ 65,467
合計	9,517,525	9,661,558	△ 144,033

■公費財源ルールづくりに向けた協議の本格化

補助、受託事業の目的を再確認しながら、組織運営に必要な財源が確保できるように行政に働きかけています。令和8年度予算において、補助金の見直しとルール化の実現と事業を円滑にすすめられるような体制づくりに向け担当部局と協議しています。

《補助金》

(単位：円)

名称	令和6年度	令和5年度	比較
ひょうご災害ボランティア活動サポート事業補助金(県)	1,000,000	1,000,000	0
ボランティア災害共済運営事務費等(県)	34,000	32,000	2,000
生活困窮者支援体制強化事業補助金(県)	5,792,000	5,792,000	0
福祉コミュニティづくり推進事業(市)	21,500,000	21,500,000	0
市町ボランティア活動支援事業(市)	1,000,000	1,000,000	0
サービス継続支援事業補助金(県)	726,000	111,000	615,000
光熱費等高騰対策一時支援金(県)	43,000	188,000	△ 145,000
社会福祉施設等物価高騰対策支援金(市)	252,000	859,000	△ 607,000
社会福祉法人等奨学金返済支援事業補助金(県)	54,924	0	54,924
合計	30,401,924	30,482,000	△ 80,076

《受託金》

(単位：円)

名称	令和6年度	令和5年度	比較
福祉サービス利用援助事業	2,491,000	2,659,000	△ 168,000
生活福祉資金貸付事業	425,447	426,447	△ 1,000
共助の基盤づくり事業	3,998,500	3,998,500	0
生活困窮者自立相談支援事業	7,499,800	7,499,800	0
第2層生活支援体制整備事業	8,000,000	8,000,000	0
相談支援事業	6,665,500	6,665,500	0
基幹相談支援事業	2,230,000	2,230,000	0
要介護認定調査事業	8,800	48,400	△ 39,600
介護予防支援事業	153,360	191,700	△ 38,340
障害程度区分認定調査事業	246,400	233,200	13,200
ｽﾎﾟｰﾂｸﾘｰﾁｮﾝ教室等開催事業	300,000	0	300,000
視覚障害者ﾊﾞﾘｯｼﾞ教室開催事業	200,000	0	200,000
合計	32,218,807	31,952,547	△ 233,740

■助成事業の活用

<p>取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)</p>	<p>民間団体助成金の情報は積極的に得ています。6年度は、中央共同募金会の助成金を活用して「つながりワーカー養成講座」を実施しているほか、法務局跡改修工事費用として神戸やまぶき財団から800万円の助成金の交付決定を受けました。今後も活用できる助成金については積極的にエントリーしたいと考えています。</p>
-----------------------------------	---

## ■クラウドファンディングなど新たな財源確保

<p>取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)</p>	<p>クラウドファンディングを含めた民間財源の獲得・活用への取り組みについては、今後の組織運営にとって必要不可欠なものです。賛助会費や寄附金など地域福祉の推進と運営強化に使える自由度が高い民間財源の確保について幅広く発信していきます。また、善意銀行や共同募金については地域福祉活動ニーズの高まりと財源の必要性を丁寧に説明を重ねるとともに、あらゆる機会を活用した募金活動にも取り組みます。</p>
-----------------------------------	---

■職員配置（3月31日現在）

職 種	常勤	常勤嘱託	パート	採用人数	退職人数
コミュニティワーカー	5				
ほっとかへんねっとワーカー	1				
生活困窮者自立（主任）相談員	(1)				
生活支援コーディネーター	1	1			
日常生活自立支援 生活支援員		2	3 (1)		1
ボランティアコーディネーター	(1)				
介護支援専門員	3	(1)			
訪問介護管理者	1				
訪問介護員	4	1	14	1	3
相談支援専門員	4 (1)				2
児童発達支援管理責任者		1			
サービス管理責任者	1				
児童指導員	3				
看護師			2 (1)		
生活介護 生活支援員			11 (1)	1	
栄養士			1		
調理員	(1)	(1)			
運転員			2		
市役所派遣	1				
事務	3	4		2	
実数	27	9	33	4	6

※職種は主な業務でカウント、（ ）中数字は兼務の人数。※採用、退職は今年度中における数を記載。

■職員配置（3月31日現在）

職 種	常勤	常勤嘱託	パート	採用人数	退職人数
企画経営部 総務課	2	2			
地域生活支援部	13(3)	5	3(1)	2	3
地域福祉課	5	3		2	
総合相談課	3(2)	2	3(1)		1
相談支援事業所	5(1)				2
在宅福祉サービス部	12(1)	2(2)	30 (2)	2	3
訪問介護事業所	5	1	14	1	3
居宅介護支援事業所	3	(1)			
なでしこサービスセンター 生活介護	1(1)	(1)	16 (2)	1	
なでしこサービスセンター 児童発達・放デイ	3	1			
実数	27	9	33	4	6

※（ ）中数字は兼務の人数。※採用、退職は今年度中における数を記載。